
杉並区立小中学校
P T A 活動セミナー2021
記録集

もくじ

対象	場所	講師	記録集ページ
5月14日(金) (10:00~11:30)			
小学校、中学校会計担当役員	分庁舎 3F 会議室	井上 尚子	3
5月14日(金) (13:30~15:00)			
テーマ研修(オンラインの活用方法)	分庁舎 3F 会議室	加藤 拓也	8
5月17日(月) (10:00~11:30)			
小学校、中学校学級委員	分庁舎 3F 会議室	四柳 千夏子	14
小学校、中学校広報委員	分庁舎 4F 会議室	手塚 佳代子	18
5月17日(月) (13:30~15:00)			
小学校、中学校会長・副会長	分庁舎 3F 会議室	勝 京子 加藤 拓也	22
小学校、中学校書記担当役員	分庁舎 4F 会議室	手塚 佳代子	25
5月18日(火) (10:00~11:30)			
小学校地域委員	分庁舎 4F 会議室	武田 信彦	30
小学校文化委員・中学校成人教育委員	分庁舎 3F 会議室	生重 幸恵	34
5月18日(火) (13:30~15:00)			
中学校地域委員	分庁舎 4F 会議室	武田 信彦	37
小学校、中学校選考委員	分庁舎 3F 会議室	平田 敬子	41

新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインで開催実施(一部会場聴講)

主催 杉並区教育委員会

協力 杉並区立小学校 PTA 連合協議会

杉並区立中学校 PTA 協議会

運営 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク

セミナー名	小学校、中学校会計担当役員
日にち	5月14日（金）
場所	杉並区役所分庁舎 3階会議室
参加人数	会場聴講者0人、Zoom参加者73人
講師	井上 尚子氏

●●● 内容 ●●●

講師の井上尚子です。私自身もPTA会長などを経験し、その後地域活性化を目指しコーディネーターという仕事をしています。現在も学校支援本部のコーディネーターのお手伝いや、コミュニティ・スクールの研修などをさせていただいています。

最近の問題としては、PTAに入会しない人が増えているということがありますが、これについてはそれぞれの学校のPTAの中であらかじめどのように対応するのかを話し合っておく必要があると思います。前提として、PTAの機能・役割とは何なのか、子どもたちにとって利益のある活動とはどういうことなのか、ということを考えて上で印刷物や配布物の取り扱いを検討されるのがいいかと思います。

さて、本題のPTA会計のノウハウについてお話させていただきます。PTA活動の中で一番多い相談は、やはり会計処理についての相談です。まずはしっかりと会計の基本ルールを押さえたいと思います。

■ 予算の実行（入出金管理）

予算とは、1年間のPTA活動を実行するための資金計画です。PTA活動と予算が連動していることが重要です。活動なくして予算はありえないということを肝に銘じておいてください。

■ 記録を取る（金銭出納帳、預金出納帳、備品台帳などに記入）

次に、必ず記録を取るということです。出入金は必ず証拠書類と引き換えに行ってください。よく立て替え払いで先に金銭を渡してしまったという話を聞きますが、その場合は出金伝票という形で記録をつけておきましょう。

また、小口現金を持っている場合は、金種表を作るなどして現金残高を管理し、金銭出納帳の残高と実際の現金残高が一致するかを常に確認しましょう。

備品とは、使用見込み年数が1年以上で、長期間にわたり繰り返し使用できるものをいいます。いつ、何を、いくつ、いくらで買ったかということは備品台帳に記載して、その備品に管理番号を書いたシールを貼っておくことをお勧めします。それは、この備品がPTAの備品で、いつ買ったものかわかるようにしておくことにより、破棄時の費用を誰が出すのか分からなくなるようにするためでもあります。

PTA会費が余ったので学校で必要な備品を買って寄付するのはどうか、という相談もよく受けます。学校は寄付を受け入れる手続きが大変ですので、長期に貸し出しするという形で処理するのが一番いいと思います。この場合も、学校とPTAは別組織だということを示すために、しっかりと備品台帳に記載しておきましょう。

■領収書の受取り方

よくあるケースとして、領収書がどこかへ行ってしまった、領収書がないのですがいいでしょうかという話を聞きます。会計役員としては、各委員会に何かを購入する際は必ず領収書を取っておいてくださいと、しつこいくらい言うのがいいと思います。

領収書には宛名が入っていることが大事です。「〇〇学校 PTA 会長様」と宛名を入れてもらってください。そして、何を買ったか明細を必ずもらうようにしてください。領収書には「文房具」などと大まかなカテゴリーしか書いてもらえないことが多いので、レシートを合わせてもらうのがいいと思います。明細がもらえないようであれば、メモを取っておいてくださいと伝えてください。また、個人の買い物と混ぜないで買い物をしてください。

講演謝礼など個人から領収書を受け取る際は、住所、氏名、何々講座講師料、朱肉印が必要です。スタンプ印は消える可能性があるため、朱肉印というルールになっています。謝礼金は源泉徴収税10.21%を預かり、税務署に収める必要があります。そのためには、PTAを源泉徴収を行う団体としてあらかじめ登録し、登録番号をもらう作業が必要です。講師料が発生しそうときには、事前に税務署に相談に行くといいと思います。

慶弔費は領収書がありませんが、案内状や会葬御礼などを取っておけば領収書代わりになります。

最近多いのがネット通販での購入です。原則は領収書の宛名が「〇〇学校 PTA 会長様」であることなので、個人名にならないか事前に確認する必要があります。どうしてもそれができないのであれば、対象の商品が「PTA活動のために購入したものです」ということを複数の人で証明する、という方法で対処できるかと思います。例えば、委員

会で購入したものであれば、委員長と購入者が「こういった目的でこの経費として支出したもので間違いありません」と書き捺印した書類に、領収書を貼るという方法です。

■領収書の発行の仕方

PTA が領収書を発行する場合は、通し番号を記入し控えを保存してください。複写タイプの領収書がおすすめです。記入を間違えた場合は切り取らず、大きく斜線を引いて折りたたみ、ステープラーで止める方法がおすすめです。切り取ってしまうと、この領収書は何だったのだろうかという無用な疑いをかけられてしまう恐れがあります。

■銀行口座の管理

出来る限り振り込みを使い、記録が通帳に残るようにしてください。振り込みを使わない場合は一件毎に引き出すと、通帳に記録が残ります。また、通帳と印鑑は別の人が管理して、出入金は複数の人で行うこともトラブル防止につながります。不便ではありますが、カードは作らないほうが盗難防止等も含め危険が減ります。

■仮払いについて

仮払いするときは、必ず申請書と清算書を作成してください。誰にいつ、いくら仮払いしたのか、そしてその仮払いを確かに受け取りましたという受け取った方の領収書を作成してください。

■積立金について

PTA のなかで印刷機積立金、大型備品購入積立金、周年行事積立金といった積立金を持っているところは多くあると思いますが、その積立金は本当に必要なものかよく考えてください。周年行事のために毎年自動的に積立金をしてきたが、大きな行事を行わなかったで余ってしまったというケースや、印刷機積立金をしてきたものの、コロナ禍でメールや SNS 中心の活動になり、紙の印刷を減らす方向にある PTA もあるのではないのでしょうか。余った予算をとりあえず積立金に回すということは、なくしていったほうがいいのではないかと考えています。

■決算と予算

その年の会費はその年の会員に還元し、使い切るのが原則です。無理な節約をして余らせて、繰越金を増やすことに繋がっていないでしょうか。無駄遣いはよくないですが、会費は予算内でうまく使う工夫も必要だということです。翌年度の会費が入ってくるま

での準備金として 10%程度の繰越金予備費を計上するのは必要ですが、予備費が予備のまま残り繰越金がどんどん膨らみ、どうすればいいかという相談も受けます。本来的には、その年の会費はその年の活動のために使い、予備費を蓄積しすぎないようにしてほしいと思います。

■会計監査と会費の値上げ・値下げ

予算と決算に差異がある場合は、なぜ差異があるのか説明できるような記録を残すことが大切だということを、各委員会にしっかりと伝えておくことが大事です。会計監査は間違いがないかを見つけてもらうチャンスだと思って、しっかりと見てもらいましょう。前期と後期に分けたほうが、間違いがあった場合の訂正がしやすいと思います。会費の値上げ・値下げの判断は、単年度での判断は危険だと負います。値上げに比べて値下げは安易に判断してしまう傾向にありますが、なぜ予算が余ったのかを一定期間俯瞰して、確認してから慎重に判断していただきたいと思います。

■個人情報の保護について

平成 29 年 5 月 30 日から個人情報保護法が改正され、PTA もこれを遵守すべき団体となりました。守るべきことは、①個人情報を取得する際はどの目的で利用するのかを本人に伝えて本人からもらうこと（学校経由はダメです）②取得した個人情報を決めた目的以外に使用しない、PTA 活動のみに使用すること③取得した個人情報を安全に管理すること（鍵のかかるところにしまっておくなど）④取得した個人情報を無断で他人に渡さないこと（誰かの電話番号を教えてほしいと言われても教えてはいけない）⑤もし「自分の個人情報を開示してほしい」と本人から言われたら断ってはならないこと、の 5 つです。

そのために、PTA ではルールを決めて運用することが大切です。必要以上の情報は収集しない、保管期限を決めて適切に処分する、管理場所・管理者を決めて対応する、などしていただきたいと思います。

■会計・会計監査のチェックリスト

いろいろお話しましたが、PTA 会計の仕事で一番大事なのは書類を残すことと、お金の支払いは書類と交換で行うことです。また、会計・会計監査のチェックリストが資料に添付されていますので、ぜひご活用ください。

※この後、5 人 1 グループでブレイクアウトルームにて懇談、自己紹介と PTA 活動で

の工夫点（SNS 活用など）や、ご自身の学校における PTA 会計の特徴や課題などを 20 分程度話し合っていたいただいた。

■ 質疑応答

Q. サークル活動費について

毎年決まった金額をサークルに渡しているが、どんな活動をして、どのような用途に使っているのか詳細を聞いたほうがいいでしょうか。

A. 特に必要ないと思います。「活動費」としてサークルの代表者に領収書を切ってもらい、お金を渡すことで問題ないと思います。

Q. 物品購入について

児童向け講演会で使用するピンマイクなどの物品購入を考えています。PTA 各種活動費とするのか、備品費とするのか、どのような費目にするといいでしょうか。

A. モノとして残るものであれば、消耗品費、備品費がよいと思います。備品費の場合は備品台帳につけてください。

Q. 繰越金について

年間収入の 1.5 倍ほどの繰越金があります。来年度以降、繰越金を使って減らすようにしたほうがいいのか、そのままにしておいたほうがいいのか、どうでしょうか。

A. PTA 会費の原則はその年に集めたものはその年の会員に還元するということです。繰越金は歴代の会員の会費が蓄積しているものと考えれば、歴代の人々や地域に還元する方法を検討するのがいいと思います。

① 周年行事のためや、歴代の方々が来訪する行事で使用する物品購入

例：テント

② 防災関係の物品を購入

③ 被災地等に寄付する

Q. 制服リサイクルの売り上げについて

成人教育委員会で行う制服リサイクルの売上金で学校の図書を購入しているそうですが、エビデンスが全くありません。

A. 遑って分かる限りの年度のエビデンスを取ることをお勧めします。次年度以降は、それだけの売り上げがあり、それでどれだけの図書を購入したのかエビデンスを残し、残金も帳簿に戻し入れてもらったほうがいいと思います。

最後に、スクール・アドバイス・ネットワークでは、PTA 活動の相談を受け付けています。メール、電話で随時ご相談ください。今日はありがとうございました。

セミナー名	テーマ研修「オンラインの活用方法」
日にち	5月14日(金)
場所	杉並区役所分庁舎 3階会議室
参加人数	会場聴講者1人、Zoom参加者54人
講師	加藤 拓也氏

 ●●● 内容 ●●●

「PTA ツールで子育て世代をハッピーに」

Yahoo 勤務。本業の傍ら「PTA をハッピーに」の理念を掲げて NPO 法人ハピタを設立。

PTA の略歴 川崎市の公立小学校の副会長を 2 年務める。現在は、子どもの成長に伴い世田谷区東京農大一中一高の役員、横浜市立東高等学校の副会長を務めている。10 年近く PTA 役員として活動している。

元々 PTA とは無縁で、自分には関係ないと思っていたが、子どもが 3 人いて 6 年生、4 年生、1 年生という形で 3 人とも同じ小学校にお世話になるタイミングがあり、その時に奥様から PTA やってこないかと相談されたのがきっかけ。

奥様も働いていたので、当時の 1 日のスケジュールは非常に大変だったので、だったら PTA くらいはということで引き受けた。そこで副会長を任せられ、軽い気持ちで引き受けた大役だったが、2 年間の活動を終えてみると、

「あれ？もっとやってもいいかも？」と思えるくらい楽しい 2 年間であった。

何がそんなに楽しかったのか？ 4 つある。

①家では見られない子どもたちの顔

学校に頻繁に行く事で、親と接する時や家での顔以外に、友達の中での子どもの様子を見られる事が新鮮であった。

②先生たちから学校情報

自然に先生とすごく仲良くなる。そうになると先生達から学校の情報を教えてもらえたり、あるいは子どもたちの様子を聞いてもいないのに教えてくれるようになったりするので非常に楽しい。

③ママ友、パパ友の和

役員になるとママ友、パパ友のネットワークが出来る。地元知り合いがすごく増え今だに仲良くしているのは役員を引き受けて良かったと思える大きな要因。

④PTA 主催イベントの達成感

PTA 主導でのイベントが成功を収めることの達成感。

実際に行ったのは親子教室、天体観測、フェスティバル（秋祭り）など。行うまでには準備などかなり大変なことも多かったが、子ども達が嬉しそうにしている顔を見ると達成感は大きく感じられた。

こういった成功体験の積み重ねが楽しいと思える要因だったと思う。

しかしながら一方では、PTA が嫌いだとか、できればやりたくない、関わりたくないという声を耳にする。実際 PTA には様々な課題がある。（レジュメ 9～12 参照）

PTA の検索データを見てみると、4 月だけ検索される回数が圧倒的に多い。また PTA 関連検索クエリランキングを見ると、PTA 入らない、PTA 廃止、役員の断り方等々、非常にみんなが嫌がっているなというのが手に取るように分かるデータがあり、この不幸な状態を何とかしたい、ハッピーにならないかなという思いを込め、PTA をもじった名前「ハピタ」という団体を設立。

NPO 法人ハピタ エンジニアやデザイナー、広報や営業、弁護士、税理士など
20 名ほどで構成され活動している。

ではどうやって PTA をハッピーにするか？

色々な方法があるので、これが答えだとは思っていないが、1 つあるのは、デジタル化ではないか。例えば 900 人規模の小学校で見ると、役員が 20 名程度、委員会が 5～6 つあり、その下に一般会員がいるというのが一般的ではないかと思う。この中で各委員会が毎月 1 回程度、何かしら稼働しているのではないだろうか。旗振りだったり、ベルマーク回収、広報誌の作成等々。殆どの学校で 6 年間のうちに 1 回は役員をやりましょうというのがルールとしてあったりもする。

それで、小学校の役員の皆さんの稼働時間がどれくらいなのだろう？とヒヤリングして算出した結果、全員合わせて 1 年間で約 2 万時間稼働していることが明らかになった。2 万時間は結構多いなと思った。PTA はボランティアで、お金をもらっていないどころか PTA 会費まで支払って無償の労働をしているとなると、これは何とかならないものかと思い、その 2 万時間を紐解いていった結果、やはり、全世帯数に紙で

お知らせを配布する作業（作成、確認、印刷、配布までその都度学校へ出向き行う作業）などに時間を費やしていることが分かった。しかしながら、そのプリントは子どものランドセルの中で奥に入っていて親に届かないなどというケースもある。PTA会費を封筒に入れて集金するなど、学校に集まったの会議も多い。

そこで「haPiTA」作業効率化ツールのご紹介

ここでは、このツールを紹介するが、これに限らず何のツールを使ってもよい。

今は100%とまではいなくても95%の方がスマホを持っている。ならば、デジタル化すれば作業効率はあげられるのではないかと考えた。

PTAにとって何が必要で何が不必要かを加味した上で必要な機能を揃え作られたhaPiTAを紹介。

- ・自分宛ての情報だけがタイムライン形式で並ぶ。
情報の種類が色で分かる⇒お知らせ、アンケート、出欠、募集など。
どのグループ宛てなのかがラベルで一目で分かる⇒全員か、各委員か、役員か
- ・誰でも投稿できる⇒+ボタンを押し、出てきたフォーマットに項目内容を入れる。
画像添付、リンク先のURLも置ける。

例：投票 今まで集まってやっていた総会などもオンラインで決議が取れる。
募集 その都度お手伝いの募集をかけられる。地域連携、地域の方々や卒業生のなどのボランティアなども募集できる。

ホワイトなPTAを目指したい、コロナで密を避けたいなどというPTAの方にはかゆい所に手が届くようなツールになっている。

haPiTA ツールとは関係なくオンライン化した学校の事例

世田谷区中高一貫校の場合

- ・今年度の会議を全てオンライン化
コロナの影響で始動が遅れたが、毎月対面で行なっていた役員会議を全てZoomに切り替えた。夏にようやくクラス委員を選出。秋口以降から全体会、各役員会、クラス役員会など、全てZoomで行なった。
開催手順としては、役員間のグループ機能、連絡ツールを使い、スケジュール調整決定したらZoomのURLを告知し時間になったら起動。スライドなど適宜画面共有しながら会議を開催する。発言などもパワポなどで映しながら会議を進める。最後に議事録を作り関係者に送る。

- ・外部講師を招いて講座を実施

例年は対面で行なわれていたものもオンラインで実施。(レジュメ 43 参照)

5 講座行ない、対面の時は少ないと 20 名、多い時は 70 名程度だった参加者が、オンラインにした結果 3 桁の参加者になった。これは家で見られることが大きな要因だと思われる。開催手順としては、全保護者に開催のお知らせを送る。(Web、ミマモルメ等) 全保護者に配信するシステムを持っている学校は決めた日時と内容を送り、参加したい人を募るだけでよい。持っていない学校は考えなければならない。参加の可否は Web でも紙でもよいが、紙の場合は参加の可否を書いて出してもらおう。参加者には事前に Zoom の URL をお知らせし、時間になったら起動し開催する。担当委員の方が何人が管理者として入り随時参加者を承認していく。司会で講師の紹介等をする人も必要。最後にアンケートページの URL を用意しておいて、アンケートに答えてもらってから退出してもらおう。これも集計して講師にフィードバック出来る。

総会もオンラインで開催。

総会の資料を作成し全保護者にオンライン上で PDF にして配布。

アンケート機能を活用して、承認・非承認を作り集計し報告書をオンライン上で送付。対面より圧倒的にオンラインの方が数が集まった。

この活動は東京すくすく Web サイトでも取り上げられた。(レジュメ 46 参照)

まとめ

ツールは何でもよい。LINE でもよいし色々なコミュニケーションツールを使いながら、PTA の運営に関して無駄な作業を減らすというところに主眼をおいてオンライン化していくということをして是非やっていただきたい。参加者も単純に増える。単に作業を効率化するというネガティブな考え方でやるのではなく、作業を効率化した方が参加もしやすくなるというポジティブな考え方で取り組んでいただければと思う。

質疑応答

Q: PTA の情報を先生方も情報共有していたかと思うが、ツールを学校のパソコンに入れるのは難しいと思うが、先生の個人のスマホに入れて情報共有していたかどうか? どうやっていたか?

A: 学校の先生は入ってくれなかったの、別でメールでやっていた。

Q: Zoom 会議は先生も参加されていたのか？

A: 校長先生も冒頭の挨拶など入ってくださって先生方も見てくださっていた。

Q: 杉並区では学校のパソコンに Zoom を入れることは出来ないのもその辺が課題となってくると思う。PTA としては Zoom の方がやりやすいが杉並区の規定で学校のパソコンには Zoom が入れられないので先生方が入れないというのがあり、どうしようかと検討中。

A: 学校の先生は冒頭の挨拶程度なので居なくても可能ではある。

Q: デジタルに慣れていない人を巻き込むにはどうしたらいいか？

デジタルを進めたい人とそこに障壁を感じる人がいるが、どんな風に進めていったのか？

A: 正直進まない事が多い。役員間の中でもこのツールが便利だと勧めてくれる人がいても、反対されることの方が多い。3 回に 2 回は断られるのが実態である。得体のしれないアレルギー感があるのかもしれない。LINE などは皆さんも普通に使えているので、Google ドライブなどから始めるだけでも便利になると思う。

Q: オンラインのセミナーを検討中。

オンライン化するにして例えば Zoom に関して言えば、3 桁の参加者が見込まれる場合、上位のアカウントを持っていないと出来ないと思うが、PTA として Zoom のアカウントを持つということが前提になるのか？など、お金の問題についてお聞きしたい。

A: 自分たちの場合、役員の中にフルスペックの Zoom のアカウントを持っている人がいたのでそれを使用したというのがある。

通常であれば、学校の予算でアカウントを取るのが良いと思う。各学校の予算はあるが、外部講師を呼ぶのに予算を使っているので、それを使うのはいいかと思う。

Q: 講師の先生が 100 名まで入れるアカウントを持っていらっしゃるのだが、お話を聞いてオンラインで増えたというのがあったので、それで考えると足りない場合があるのかと思ってきた。

A: やりかたとして先着 100 名や抽選にするのはどうか。

Q: 月額でも買えるアカウントがあるので、その月だけフルスペック購入もいいかと。

A: 年1回なのか？それならばその方法もいいかと思う。

その後40分程度ブレイクアウトルームにて各グループで情報共有。

各校のIT事情など共有し、参考にいただいた。

セミナー名	小学校・中学校学級委員
日にち	5月17日(月)
場所	杉並区役所分庁舎 3階会議室
参加人数	会場聴講者0人、Zoom参加者129人
講師	四柳 千夏子氏

●●● 内容 ●●●

■ あなたが抱く「PTA」のイメージとは

皆様のPTAにどんなイメージを持っているだろうか。なかなか集まることが出来ない中で、メールやlineのやり取り、あるいは電話やオンライン会議など、家で子供がいる前で、活動をしているものと思います。そんな中で皆様は「笑顔」で活動出来ているだろうか。今PTAというと「負担がある」「やらされている」等マイナスのイメージがついて回ります。今日は「本当にPTA活動はマイナスしかないのか」を一緒に考えていければと思う。本日はブレイクアウトルームを複数回、活用し情報交換をしていく場としてほしい。

4～5人程度のブレイクアウトルームに分かれて、以下の内容にて情報共有を行って欲しい。



**** ブレイクアウトルーム① (20分) ****

自己紹介 (お一人2分ぐらいで)

- ①お名前、学校、お子さんの学年、ご自分のPTA活動歴
- ②今回、どうして学級委員に手をあげたのか?
- ③学級委員として決められているお仕事は何ですか?
 - ③-1 今年度、それはやれますか?あるいはやれそうですか?
 - ③-2 今年度、やれないこと、あるいはやらなくていいこと
 - ③-3 コロナ禍だからやること

ここまで話したら次の方へ
全員①～③についてお話されたら...

情報交換テーマ (全員が話せるようお願いします)

- ④昨年度のコロナ禍、また今年度になつてのコロナ禍、ご自分のお子さんの変化、クラスの変化について

1) メモをとりながらお話してください。
2) メインルームに戻ったら発表をしていただきますので発表者を決めてください。

いきなりブレイクアウトルームで話してもらったが、いかがだっただろうか。1年前では考えられなかったが、別の場所にいる人たちがオンラインで話ができる時代になっている。

Q・どんな話が出たか共有してほしい

- 緊急事態宣言が出て、子供が理解できない中で我慢させられて、不安定になった時期があった。今は学校もあり安定してきている。半面、家庭環境は実はよくなっている。時節柄学校内に PTA が入れていないので、クラスの状況が見ることが出来ていない。
- 保育園は電子化が進んでいたもので、様子が見ることが出来たが、今はわからないので学校の様子を知りたくて学級委員になった。先生も積極的に対応してくれて、IT 化も進んでいるのでそれはありがたい。

学校にいけない状況が続いているが、学級委員になったメリットを生かして色々な事が出来るのではないかと考えている。昨年度も講師をやらせてもらったが、反省点が2つあった。1つ目は「PTA 活動が止まっているんだろうな」という認識だ。杉並区の PTA セミナーで話を聞いたところ、高校説明会も開催できない中で学級委員で話し合っただけでオンラインで、自分たちの学年の生徒向けに高校説明会を開催した事だ。2つ目は三鷹での活動だが、子供たちが我慢することが多い中で、色々なものが中止になってかわいそうだなと思っていた。課題意識を持ち、何か地域で楽しいイベントが出来ないかを PTA に働きかけた。そこで現役の PTA の方々からの意見で、「ようやく学校が再開した、子どもたちにとって学校がどれだけ大切な場所だったか改めてわかった」「今は学校を止めることは絶対にしたくない、クラスターを起こすことは絶対に避けたい、なので今は何もしない方が良いと思っている」という意見をもらった。私はそれまで PTA に元気がない事に課題意識を持っていた。

休校の間、子供の心のケアをしてきた保護者からの意見を聞いて、何かをするという事を辞めた。PTA が真に子供のことを考えていたという事を痛感した出来事であった。

以前、近所の公園に20台くらいの自転車が置いてあるのを見た。ディスタンスを保ちながら、「青空保護者会」をしていた。知恵を絞れば色々な活動ができるのだという事を知ることが出来た。集まることだけがすべてではないというのを知ることが出来た1年だった。集まることが出来ないからこそできることもあるのではないかと考えている。オンラインでつながることに慣れてくると、職場からや帰宅の途中にもつながることが出来る。

それでは、2度目のブレイクアウトルームを進めたい。PTAの学級委員という活動を通じて、今のコロナ禍で何ができるのかという事を考え、皆で話してもらいたい。



****ブレイクアウトルーム② (15分) ****

今、子どもたちに何が必要か？

PTA、つまり私たちに何ができるか？

密になれない、集まらない、ネット活用

こんな時に「学年」「学級」のまとめりでできることを考えてみましょう。

1) メモをとりながらお話してください。
2) メインルームに戻ったら発表をしていただきますので発表者を決めてください。

Q・どんな話が出たか共有してほしい

- クラス・保護者の親睦で茶話会をやっていた学校が多いがこの状況下だと難しいので Zoom で親睦会をやっていることもある。青空での懇親会みたいな事が出来たら良いのかなという話がでました。赤ちゃんがいる家庭の方も Zoom なら参加しやすいかもしれない。
- 学級委員の代表をやっているが、保護者の方から懇親会を開きたい気持ちもわかるが、開催側からすると何かあった時の場合が気になってしまってジレンマになっている。何かできる形を模索していきたいが、情勢の見極めと板挟みになる状況が非常に難しい。
- 一人一台タブレットを持ち帰ってくるという話があった。子供が使用する Teams を活用して、去年中止になったが保護者会をオンライン化できるのではないかという話をしていた。切れてしまっている親の連携を復活させるのが子供を守るために、重要であると思う
- 親の連携が取れない中で不安な時期が多い。特に進路の話を共有できない。Teams を使って月に一度進路相談会を開催しようという活動を始めている。学校を巻き込みながら活動出来ているので、心配なことをオンラインで顔を見ながら話すという活動は重要であると思う。

- (参加者同士での質問) 先生も参加してオンラインで活動出来ているのですか？
先生の参加はスムーズでしたか？

→PTA の活動は Teams と Zoom を活用していた。先生は Teams でしか入れないが学校側がスムーズに対応してくれている。どうやったら学校とオンラインでつながることが出来るか、相談し模索していくことは大切だと思う。

四柳講師からのまとめ

PTA 活動は長い歴史がある。これまでは前年にやったことを引き継げばなんとなく終わることが多かった。コロナ禍で前と同じが出来なくなった。しかし、メリットもあり、やらなくても良いことが分かるようになった。やらなくてもよい事を思い切って辞めることが出来る状況になった。PTA 活動を見直すチャンスが来ている。やり方に正解はない。保護者の皆で話し合っって皆の中で最適解を探していくのが大切になる。その時に大切なのは「子供が主語になっているか」であると思う。親同士のつながりも含め、どうしていったら良いのか改めて考えていければ良いと思う。

セミナー名	小学校・中学校広報委員
日にち	5月17日(月)
場所	杉並区役所分庁舎 4階会議室
参加人数	会場聴講者3人、Zoom参加者59人
講師	手塚 佳代子氏

●●● 内容 ●●●

講師は阿佐谷に拠点を置き、NPOとして情報化の推進を図っている。地域のIT化、情報化、杉並区の公式ウェブサイトの構築などにも携わっている。

コロナ禍で苦しんだ年ではあったが、その中でもアート展をWEB開催のアート展として実施したり、中学生以上高校生以下のアート展も専門家の下で実施しようとするなど、様々なことをネットに振り替えて1年を過ごしてきた。

講師自身も10年前は区内の小学校で学級代表、中学校では広報委員と、地元のPTA活動を経験した上で、本日は少しでも先輩の立場から役に立つ情報をお話したいと思う。

1 広報の目的とは

広報 = Public (公共・公然) Relations (交流・関わり) 広く知らしめるということ。

学校の広報とは学校の魅力・PTA活動の魅力を伝えること。

読んだ人にPTA活動の楽しさや意義を感じてもらえるのがよい。PTA活動が子どもにとってこんなメリットがあるよなどと伝えられたら良いと思う。

最近はデジタル化を推進する仕組みもある。

プリントは子どもがなくなってきたり、親に見せるのを忘れていたりすることもあるが、その点デジタルであれば確実に見る事が出来るというメリットがある。印刷する時間も、紙もなくなる。そういった点からもデジタルに切り替えようとする学校も非常に多いという流れだと思う。また、働くお母さんが多いということもあり、とにかく忙しいというのは皆さん共通だと思う。その中で従来通りのPTA活動を理解していただくということは段々難しくなっていると思われるので、問題を感じたらどんどん改善していけばよい。

さらに、忙しい保護者の方々にも広報誌を読んでもらう為には、ここだけは見てもらいたい!!という所に、見出しで学年を限定して大きく入れることや、低学年でこんなものが流行っています!などと読む人をこちら側で指定してしまう方法もある。

また、レジュメ4にあるように、杉並区内には外国人の居住者も多い。主には中国・韓国人だが、他の国々の方々もいるので、分かりやすい文章を心掛け、重要!!(Important)など、一目で分かるように注意をひく書き方をすることも必要。

2 後半に向けての課題・改善・挑戦とは

・編集方針・企画制作

保護者はどのような情報を欲しがっているのか読者目線に立った記事を考えながら、やりたい事、このメンバーでしかできない事を自由に楽しくやっていく。

また、PTAとは、PとTの関係団体なので、1人でもいいので先生に会議に入っただけ。そうすることで学校側からの目線や、知らない情報などもいただけるので、それを取材してみようか?など別の切り口も開ける。

PとT両者で行うことによって委員としてもしっかりとした形のあるものになっていくので、教職員との係わりも大切である。

・効果測定

どのくらいの人を読んでくれたのか、どんな記事に関心を持ってくれたのか、効果測定するアンケートなどを実施し記事に反映させるのもよい。

紙媒体では300人に配っても数枚しか戻りがないなどはよくあることで回収は非常に難しい。QRコードを付けたり、思わず書きたくなるような質問を考えるなど回収率が上がる工夫をするのもよい。

デジタル化は効果測定の面においても有効である(レジュメ12参照)

解析サービスなどを利用すればいつ、何人が、どのページをどのくらい見たかくらいは分かるようになっている。

・デジタルの活用

皆さん忙しい中での活動であるため、打合せはオンラインを利用する方法もよい。

この時注意が必要なのはLINEやメールでのやり取りの場合、遅い時間でのやり取りなども増えるので、直ぐに返信しなければと気にしてしまう方には負担になることもある。時間を決めて、何時以降は翌日返信などとしておくもよい。

・制作レギュレーション

原稿をチェックすることや、情報を編集する立場にいて気になるのが、文体である。ですます調、~だ。がまじり合っている文章がある。

統一するなら統一。統一しないのであれば記名制にするのがよい。文責〇〇としておけば文体が違ってよい。

また、PTA用語はあまりPTA活動に積極的でない方には馴染みが無い言葉でもあるので、出来るだけ用語は訳さない。

写真には小さい文字でいつ・どこで開催された〇〇の様子。などとキャプションを入れるようにする。

レイアウトは先割にして、字数を指定して文章依頼するとよい。

字数が多すぎて削る、少なくて埋めるなどの時間を省き効率良く進められる。また、デジタルが苦手な人は手書き原稿でもらってそのままスキャンして載せるなども味のある誌面作りになってよい。

チーム編成は学年同士で組むことが多いが、他学年と組むと情報が先取り出来たり面白いと思う。

・コンプライアンス

外部にも配布されることも考慮しなければならない。

個人情報や著作権についてはある程度知識を持っていると、知識として面白いし、おっかなびっくり使うのではなく、使える権利のあるものはうまく利用して使えるようになる。

個人情報は、個人が特定されるようなことはあまり書かない。

写真などで顔や名前が特定されると悪いことが起こらないとも限らないので、注意する。

著作権は何にでも存在する。保護者の書いたイラストにも存在。

また、公共上の利用であればある程度は認められているので断りなくとも利用可能なものが多い。その場合は「 」で〇〇より引用と書いてあれば誠意がある。

杉並区にも「すぎなみ地域コム」という無料提供のサービスもある。

PTAのHPを持ちたい。サイトを持ちたい、など自己管理できる場合には提供を受けられるので利用可能なものから挑戦するのもよい。

この後、グループワークにて40分程各グループで情報共有。

・ワンランク上のレイアウト

無料や安価な費用でレベルアップ・作業の時短

役立ち情報

・まとめ

皆さんが皆さんなりの広報部員としてやりたいことをやりたいようにやっていく。

今年ならではの！と変化を恐れず楽しみながらやっていただきたい。

今日はありがとうございました。

セミナー名	小学校、中学校会長・副会長
日にち	5月17日(月)
場所	杉並区役所分庁舎 3階会議室
参加人数	会場聴講者0人、Zoom参加者99人
講師	勝京子氏、加藤拓也氏

●●● 内容 ●●●

～勝京子氏による高井戸中学校での前年度取組について～

定期的なアンケートを実施するがPTAをやった方の7割はやってよかったが、次回はやりたくないという回答多い。

私はやるからには、会費以上価値提供をしたいと思って取り組んできた。PTAの問題点としてあげられるのは、マーケットリサーチができてないことであると考える。

実際に私がPTAをやっていた際は、杉並区のインターネット環境普及率調査、委員会のネット開催、アンケートの実施、ホームページ作成等を実施していた。

アンケートで厳しい意見を出す方をPTAに関心がある方と考え委員決めの時に参考にしていた。また、PTA活動情報を学校関係者に共有するためホームページ作成(杉並区地域コムを利用)悩みや質問としてよく挙げられる項目をQ&Aとして作成した。

委員会をネット開催することでITリテラシーも高めることが可能となる。

このような、新たなスキルを得ることが出来る為、私の考えは「PTA活動はノーリスクハイリターンな活動」であると考える。

他県事例も積極的に調査したが、他県は学校同士でネットを通じての意見交換が実現している。私の所属した学校もまだまだ改善の余地あると考える。

～加藤拓也氏によるPTAに関する調査と実事例の紹介～

私は、PTA活動をハッピーにしたいという思いで「haPiTA」というNPO法人を設立した。とにかくPTA活動における問題点は負担が多い事だと考える。

インターネット検索履歴データを調べたところ、PTAに関心が高い4月は「PTA」という単語検索が多く、夏は検索数が少なくなることがわかり、そこから関心の薄れが出る状況だと認識している。

PTAの稼働時間は2万時間程度かさむものであり、とにかく負担が大きい。

そこで、アプリ作成によるデジタル化（アプリ名「ハピタ」）や役員会議などの会議を zoom 開催（議事録もオンライン展開）、外部講師招いたセミナーを zoom 開催（子どもと保護者向け）等、とにかく効率化に取り組んだ。結果、外部講師を招いたセミナーは参加人数が増大した。総会もオンライン開催することにより、今までより参加人数が大幅に増えた。

運営効率化ツールを作成することでオンライン総会開催やアンケート、紙媒体のデータ配布が可能となった。これは、コロナ対策にもなることに加え、PTA 活動に伴い生じる負担を減らすことを実現しハッピーな PTA 活動となった。

「ハピタ」については、今後地域人材・業者のマッチングや気象庁自治体連携によるアラート安否確認、備品販売、写真販売などへ展開し、さらなる PTA 活動の効率化を実現していきたい。

ここで、運営を担当していたスクール・アドバイス・ネットワークの理事長の生重が参加。

■ 生重より講師二人への質問

Q1:PTA 活動と自分の時間のバランスについて

（加藤）：現代は働いている人が 7 割、いかに効率よく物事を処理するかに価値を見出している。PTA は何の時間か分からない時間が多い。非効率な部分を改善していく事で価値のギャップを埋めていく事が重要だと考える。

（勝）：教員との連絡手段を工夫することや、子どもに確認が必要な用紙を持たせて先生とのすれ違いを回避することができる。

（生重）：PTA のやり方見直すうえで学校との合意をしっかりと積んで置くことが今後重要になると考えている。勝さんの話にあったが、PTA はノーリスクハイリターンで、自分の武器なるものを得ることが出来たという経験を 2 人はしているが、その経験を多くの人に感じてもらうことが大事だと思う。

Q3 : PTA 活動を進める上で、成功体験を増やすための方法は何だと考えるか

（加藤）：勝さんの取組のように広報誌の見せ方を変えて一般会員に届けるのも一つ。書面の広報誌だとタイムラグのある情報となるが、ホームページなどを利用して写真やイベントの情報をタイムリーに更新することでどんな事が行われているか可視化することができる。会費を使った物の写真や取組の写真をタイムリーに発信することも、一般会員の納得感を得るための方法だと考える。

（勝）：イベントを行ったらタイムリーに発信し、楽しそうな雰囲気を写真などでアピールすることが大事だと思う。

(生重)：「PTA 活動とは何か」、「楽しさを見出すポイントとは何か」などを継続的に発信していくことは重要であると考えている。

4～5人程度のブレイクアウトルームに分かれて、以下の内容にて情報共有を行った。

・ブレイクアウトルームについて

- 自己紹介（一人1分程度、「学校名、お名前」） **合計5分**
- 本日の対談の感想（一人1分程度） **合計5分**
- 自分たちが考える必要なオンライン化について発表（一人2分程度） **合計10分**

※講師よりランダムに指名し、一部チームより印象深かった話を発表して頂きます。

共有の内容

(加藤)：コロナで会社に行かなくなった男性の中で、地元で何か活動をしたいという思いの人も増えている。地元で居場所を作ろうという気持ちで PTA に参加してくれる男性が増えることを期待している。そうするとビジネス的な運営の仕方が浸透し PTA が変わって行くと思っている。

質問

Q：先生とどう繋がるか。チームスを PTA や保護者へ開放するということは進んでいるのか。

A：(生重) 杉並区は個人情報保護条例が非常の厳しい中で頑張っていたいただき現行の状態である。

終了時間が迫っているため、何か、他の質問事項があれば、スクール・アドバイス・ネットワークへ改めてご連絡ください。どうもありがとうございました。

セミナー名	小学校・中学校書記委員
日にち	5月17日(月)
場所	杉並区役所分庁舎 4階会議室
参加人数	会場聴講者0人、Zoom参加者49人
講師	手塚 佳代子氏

 ●●● 内容 ●●●

講師は阿佐谷に拠点を置き、NPOとして情報化の推進を図っている。地域のIT化、情報化、杉並区の公式ウェブサイトの構築などにも携わっている(詳細はレジュメ参照)。

コロナ禍で苦しんだ年ではあったが、その中でもアート展をWEB開催のアート展として実施したり、中学生以上高校生以下のアート展も専門家の下で実施しようとするなど、様々なことをネットに振り替えて1年を過ごしてきた。

講師自身も10年前は区内の小学校で学級代表、中学校では広報委員と、地元のPTA活動を経験した上で、講師というよりは少しだけ先輩の立場から役に立つ情報をお話したいと思う。この1,2年は特殊な1,2年であったので、何か変えるならいい機会でもあるので、その辺も踏まえてお話出来ればと思う。

運営委員会の情報発信

書記の主な役割は通知と報告。会員に知らせることが書記の役割であって、議事をそのまま残すとかそういった事ではない。会員に知らせることが大切。

ここで、再確認していただきたいのは、PTAとはPとTが協力し合う事が原則。

皆さんの学校で先生が関わっていないような状況がある場合には、会議の冒頭だけでも参加を求めたりして、一緒に作っていくという環境作りをしていければ双方の理解も深まり、その後の運営もスムーズに出来るようになる。

日本PTA全国協議会の文章にあるように、保護者と教員が学び合うことが社会教育であるので、「自校はどうか?」「先生にきちんとお知らせ出来ているか?」「協力が出来ているか?」などから見直ししてもらえたら良いと思う。

作業の効率化

作る側も読む側も忙しい。その中でどう効率化を図るか。コロナ禍という特殊な状況でもあるので、このタイミングを生かして変えるなら今かもしれない。

情報到達効果

皆さんの作ったものがどのくらい読まれて理解されているか。誌面を作る事は目的ではなく手段なので、読み手に理解してもらうことを重視する。

これからの活動スタイルについて

少子化に伴い会員数の減少、それでも学校数・委員数は変わらず一人当たりの負担も重くなる中、独自の仕組み、取り組みについて検討。

中でも、デジタル・ネット、読み手配慮、独自の仕組み・取り組みについて簡単に説明していきたいと思う。

デジタル・ネットの活用

今日も Zoom 開催での参加になっているが何も特別なことではない、Google やマイクロソフトも無料のサービスを持っているのでメンバーの会議などでも活用していくとわざわざ学校に出向くこともなく、家から参加できるのでスムーズ。

Clubhouse などは同時に会話もできるので用途に合った物を利用するのがよい。

印刷廃止の検討

究極の形で少しきついかもかもしれないが、印刷物を極力なくす、皆さんが学校に行って印刷する手間をなくすようにするのがいいのではないか。文字校正もネットの場合は直前まで修正できるなどメリットがある。デメリットもあるがデジタルに慣れていかなければならないという状況ではあると思う。

これまでは共存というやり方をお話ししたこともあるが、それでは進まないという状況にもなっているので、可能なものはデジタルに切り替える。

お知らせなども、メールマガジンに切り替える（スマホやガラケーと呼ばれるものでも、メールは受信できる）など、見直す機会ではある。

定期配信などにして、毎月配信日程を決めておくことで、PTA にあまり関心のない方にも気付くようにすることが出来る。

セキュリティについては、委員も会員も意識を高めることが大切。無料で出来るテストシートなどを配信しているところもあるので、活用してもよい。

自分の学校に必要な知識はどのくらいか、保護者として身につけておく知識はどれくらいかを模索しながら活動出来ればいいのではないか。

読み手への配慮

働いている会員、外国人の会員など様々いる中で、どうしたら読んでもらえるのかを考えていく。

内容の前に、まず手に取ってもらわないといけない。

その為には、見出しに工夫が必要。短めで太目の字で見出しを付けるなど。

また、レジュメ4にあるように、杉並区内には外国人の居住者も多い。主には中国・韓国人だが、他の国々の方々もいるので、分かりやすい文章を心掛け、重要!!(Important)などと、一目で分かるように注意をひく書き方をすることも必要。

また読み手には、自分事か、他人事かも重要で、読むか読まないかの判断基準にもなる。具体的に何年生対象なのかを記入するのもよい。

外国人にもわかるような見出しに使える英文も参考に紹介してあるので活用していただきたい。

独自の仕組み・取り組み

自分が担当したから読みやすくなったなど、やってよかったと思えるような工夫をしてよい。何か新しい事を試すなら小さいことから変えていき、失敗したら次の年にやり直せばいい。

課題を見つけて改善していく事は次世代にも繋がることなので、まず何か試してみる方がいいのではないか。

担い手不足

PTA が子供たちにとって必要であることを理解してもらわなければならないが、やりがいや正しく伝わっているのかが不明である。大変さばかり強調されるとどんどん PTA の担い手が減っていくことがあるので、PTA は大変な面もあるけど、楽しいということ伝えていただければいいかと思う。

またゆるやかなサポーター制として、委員に拘らず、適材適所の会員に協力を求めるのもよい。保護者の方々の中には実は得意分野を持っている方が多いので広報委員、書記委員という括りではなく部分部分でお手伝いをいただく方法などもよい。

例えば、写真だけなら手伝えるよ。とか、パソコンだけならいいよ。とか、絵だけなら協力できるよ。いう方々にその部分だけお願いしてもよい。

ネットワーク化の注意点としては、メールでのやり取りになると、夜の遅い時間もメール交換しがちになるので、すぐに返事をしなければと考える人には負担になってしまう。何時以降は翌日返信などのルールを決めて行うとよい。

担い手不足は委員活動が楽しく見えるかというのも大きな要因になるのでその辺もご配慮いただければと思う。

この後、グループワーク（オンライン）にて40分程自校の取り組みについての発表や他校との情報共有の時間とした。

グループワークを終えて

各学校、色々試して使用していることが分かった。

その中で共通の悩みは、何を使用するか、有料か無料か、Wi-Fiをどこから持ってくるかということのようだ。学校支援本部からお借りして共有しているという学校もあったので、そのような事が今後の課題であると思う。

学校に見合った使い勝手の良いものを、検討してみるうえで、ITに詳しい方に意見を求め、PTAに適したITツールについてのアンケートなど実施してみるのもよい。

PTAのお仕事は一回手伝うとズルズルとずっと手伝わされるのではないかとの心配から手を挙げない方が多いけれど、この2回だけでいいのでお手伝いお願いします。などと、具体的にこの部分だけと示せば手伝ってくれる方も増えると思う。

既に学校で使われているアプリ例

- ・ LINEWORKS
- ・ がくぷり
- ・ マ・メール
- ・ すぎなみ地域コム

他にも多数あり、どれを選ぶかは難しく時間のかかる作業ではあるが、自校に見合ったものを探して活用してもらいたい。

参考

セキュリティ対策、コンプライアンスに関しては広報委員と被る事が多いので、広報委員と情報共有をしてもらいたい。個人情報などに関しては、情報の組み合わせで個人を特定できるような状態を防ぐことが重要。

作業分担・作業フローについて

自分達の代でどこまで変えていいのかという意見・悩みが広報委員にもあった。この点は来年の委員の方も悩む部分かと思うので、自分達の代で改革した部分について、「これは踏襲した方がよい」、「これは年度毎に自由に変えてよい」などを後継の方に伝えてもらえたら、悩む時間が減るのではないか。

議事録の短文化

長く書いて読まれないより、短く書いて読んでもらえた方がよいと思う。校長先生の挨拶など前置きなどは可能な限りカットしてもらい、見出しに校長先生の言葉をそのまま使うなど、目を引くような工夫をする。また、重要事項は赤色で書くなどの視覚効果も利用すると良い。

まとめ

PTA をやってよかったなと思えるような、自分たちならではの個性やスキル、独自の考えを生かした情報発信に取り組んでみましょう。
今日はありがとうございました。

セミナー名	小学校地域委員
日にち	5月18日(火)
場所	杉並区役所分庁舎 4階会議室
参加人数	会場聴講者0人、Zoom参加者51人
講師	武田信彦

 ●●● 内容 ●●●

地域の連携、安全に関する取り組みなど、皆さまの地域委員としての活動は多岐にわたるが、コロナで非常に取り組みが行いにくい状況なのかなと思う。本日は、子どもの防犯について、コロナの中で何ができるのか、最新情報を織り交ぜながら具体的に話していきたいと思う。

私の専門分野は市民防犯、一般市民ができる防犯である。いわゆる防犯というのは警察が主導してきた関係で、その影響が色濃く残っており、不審者や犯罪抑止といった言葉が独り歩きしてしまい、いくつか誤解を招くことがある。防犯だからといってなんでもできるわけではない。私たち一般市民ができない防犯というものもある。そのあたりを丁寧に伝えていくことが私の仕事である。

そもそも、なぜ日本で防犯をやらなければいけないか。それは「いってきます」「ただいま」と、自分の足で出かけて自分の足で帰ってくる文化があるからである。海外では、大体13歳になるまでは子どもを一人で外出させない、というのが一般的な防犯の考えである。この違いは治安の問題ではなく、自己責任の強弱からきている。さらに今、核家族化や共働き世帯の増加などにより、日本の学童クラブの利用者が130万人強と、過去最多を記録している。元々「いってきます」「ただいま」の文化的背景があるうえに、帰ろうとしても家に大人がいない家庭が増えてきている。子どもたちが外で、子どもだけの状況になりやすい環境が揃ってしまっている。

そして、たとえ悪い気持ちを持った人がいても、それを表に出さなければ何の行動の制約も受けない、つまり、どこでも犯罪被害のリスクが生じるということも忘れてはならない。治安がいいとされる、安心感が広がりすぎた地域こそ危機感がなくなるので、かえって犯罪原因を抱えている人にとってはやりやすい環境にもなりかねない。子どもの防犯対策はどこでも欠かせない状況である。

さらに、防犯対策を考えるうえで重要なのが、聖域を設けないことである。「ここは大丈夫」「世間様が見てくれている」などという勝手な安心感を持たないことが大切。

警察庁の資料によると、子どもが被害に遭いやすい場所として4か所抜粋されている。①道路（特に路地や片側が田畑など人通りの少ない場所）②駐車場・駐輪場（待ち伏せしやすい）③公園（子どもが複数人で遊んでいても注意）④集合住宅の共用部分（油断しがち）警視庁によると自宅から250m圏内の被害が多いというデータが出ている。

ただ、これらの場所はあくまで傾向やヒントであり、答えではない。「空白」が生まれる瞬間、子どもが子どもだけになる瞬間をなくすことが重要。ポイントは一人ひとり違うということである。

ではどのようにして「空白」をなくしていくか。一人だけで行うのは無理である。日本の良いところ、自己責任ではなくみんなでやろうとする考えを生かしていけばよい。地域、保護者、そして子ども自身。これらの力を重ね合わせ、子どもが犯罪被害に遭いにくい環境をつくるのが、今の日本において最大の防犯対策である。

防犯対策で一番確実なのは大人の「付き添い」、しっかり付き添えるのであれば、できるだけ付き添ってあげるのが一番よい。押し付けるのではなく、付き添うことは過保護ではないと気づかせてあげることが大切。特にわいせつや声掛けは人がいないとき犯罪になりやすい。なので大人の存在が最強である。

とはいえ、仕事やライフスタイルの関係で常時付き添ってあげることが難しい。なので地域の方々の笑顔とあいさつによる「見守り・助け合い」が欠かせない。ここで注意が必要なのが、犯罪抑止ではなく犯罪防止だという点である。力の行使や武器の所持は許されてないし必要ない。地域の皆さまが笑顔であいさつする姿そのものが、犯罪が起きにくい環境を作っていく。パトロールのデザインも柔らかいものでよい。

それでも地域の目が届かない、子どもが一人になる場面がどうしてもでてくる。そこで初めて子ども自身の「自分を守る力」が引き出される。ここでいう身を守る力はパンチやキック、大人を2秒で倒せる方法ではない。身を守ることと暴力を伝えることは違う、大人の力にはかなわないという大前提がある。身を守る力とは家庭や学校で身につけたコミュニケーション力、知恵を発揮する分野である。

子どもを一人にしないという考えを、子ども自身に知ってもらうことで、より犯罪被害に遭いにくい環境をつくることができる。大人と子どもの考えをそろえるために、最初に伝えるべき言葉は「ひとりにならない」。お友達と歩く、地域の大人がいるところを歩く、おうちの人と歩く。キックやパンチを使わなくても身を守る方法があるということ伝えていくのが大人の責任である。それでも一人になることはある。どんなときに一人になるかは一人ひとり違うので、子どもたちに質問して考えてもらう。

一人にならないことが大事で、でも一人になることがあると意識付けをしたら、その次は自分の力のスイッチを入れることである。子どもには大人に勝っている力がある。そ

これは観察力である。「だるまさんがころんだ」を行うと、その速さに驚かされる。しかし、まわりをよくみる、観察することが防犯に役立つということが伝わっていないので、リズムやゲームなど簡単な言葉で伝えてあげると自信が身につく。

もう一つよくみることとして、距離感を持つことが大切。くしくもコロナでソーシャルディスタンス、人との距離をとることが求められているが、それを利用してしまふ。マスクがなくなっても、さわられない、つかまれない長さをよくみる。距離感については、心の距離感、断れずに心をコントロールされないよう、「できません」の練習を繰り返す。とはいえ、「できません」を言わなくてもいいコミュニケーションもあるので、丁寧に伝えていくことが大切。

怖いことがあったらどうするか、逃げる。助けてくれる人がいるところまで走って逃げるとなると、その前段階として、地域との関係づくりをしていきながら、助けてくれそうな人を調べておくことが、準備として有効である。そして一番難しいことが、「たすけて」と言うこと。大きな声の「たすけて」だけでなく、怖いことがあったと、小さな声でも大人の人に伝える、これも自分を守る力になる。

「たすけて」を言ったり、逃げたりするための道具が防犯ブザーである。声が出ないときに代わりに SOS を出してくれる役割と、大人をびっくりさせて逃げる時間を稼いでくれる役割がある。丈夫なものを選び、すぐ手が届くところに装着することがポイント。投げ捨てて使うことも想定されるので、くれぐれも名前、住所、電話番号は書かないようにしてほしい。

今お話したようなことを PTA の皆さまが地域委員として啓発していただくことが大事なのだが、実際にどうすればいいのか難しいと思う。広報委員の力を借りながら、何回かに分けて分かりやすく伝えていく。そういった時に、「子どもの安心・安全ハンドブック」というものがベネッセ子ども基金から出ているので、こういったツールをぜひ活用してほしい。

防犯というと、犯罪者から身を守るといった感情が入ってしまいがちである。見守りや助け合いといった雰囲気づくりや、子どもたちへの防犯指導は、実は未来への重要なメッセージであると感じている。今なにか選択を間違えると、暴力や差別といった分断を、防犯によって生み出しかねない。暴力や差別、分断が生まれぬような対策を考えていけることが、本当の意味で強く安全な社会ではないかと考えている。なので、子どもたちへ防犯を伝えるときの言葉遣いや、PTA で防犯を共有するときの考え方、そういったものを伝えるとき、一旦立ち止まって、今日お話した防犯のエッセンスを取り入れていただきたい。

後半は4～5人程度のブレイクアウトルームに分かれて、以下の内容にて情報共有を行った。

・ブレイクアウトルームについて

- 自己紹介（一人1分程度、「学校名、お名前」）合計5分
- 現状の各校の防犯への取り組みを共有（一人3分程度）合計15分
- コロナ前後での取り組みの違い（一人4分程度）合計20分
- 余剰時間：皆さんの事例へのコメント（フリートーク）

グループワークののち、質疑応答の時間を設け、以下の質問が出た。

●防犯ブザーに名前や住所を書いてはいけないというお話が出たが、一方で、万が一の場合の連絡先を知る手段になるのではないかと考えているのだが、そのあたりの考えをお伺いしたい（参加者）

⇐声掛けのときに本名を呼ばれて知り合いを装うケースがあるので、表に出る部分には名前を書かないのが防犯のスタンダードの考え方。ただランドセルの中までは、そこまで気にしなくていいと思う。もしそれで忘れ物をしてしまうようであれば、その子が分かるようなシールなどを目印に活用する。

セミナー名	小学校文化委員・中学校成人教育委員
日にち	5月18日(火)
場所	杉並区役所分庁舎 3階会議室
参加人数	会場聴講者0人、Zoom参加者15人
講師	生重 幸恵氏

●●● 内容 ●●●

成人教育委員会、文化委員会は何をすところなのか、そこからお話をしていきたい。

杉並区 PTA ハンドブックには、

成人教育委員会／文化委員会

子どもを育てる保護者は、子育ての問題や教育上の課題などに悩むこともあります。

保護者同士の学びの場として、講演会、研修会、見学会、親子教室などを企画・運営していくのが主な役割です。

活動の目的

保護者の教養、見識、教育への理解を深めることを目的としています。

活動の内容

会員が自ら主体的に学び、活動できることが理想です。PTA活動の目的に沿った内容を、学校とも相談しながら計画しましょう。

保護者は子育ての問題や教育上の課題など悩むことも多い、保護者同士の学びの場として講演会・研修会・見学会・親子教室などを企画運営していくのが主な役割です。主体的に動き、学ぶ機会をつくるのが委員会活動となっています。

この文化成人委員会ができた歴史を振り返ってみると、かつて私どもの今の生活パターンとは全く違う専業主婦が多くいた時代であり、家庭も三世同居みたいところが多く、なかなか家の外に出られない環境に置かれている方たちが子供のため・学校のため、自分たちが学ぶためという意図で学校に足を運び、保護者の皆様の自分自身の時間を作るというのが出発だったという話もある。

私が所属していた PTA の文化成人委員の活動では献血を実施していた。大人自らが誰かの為に役に立つ活動を長年実施しており、歴代受け継がれていた。この活動には社会貢献という意図があり、担当していた委員もやりがいを感じ生き生きと活動していた。

今回の PTA セミナーで、学校ごと独自で様々な活動を実施していると思うので共有の場としてほしいと思う。

昨年はほとんどの委員がコロナ禍で何ができるのか模索しながらも実際は活動できなかったと思う。何もできないのは悪い事ではない。子供の活動で不安に思っている事を起点にして考えていくのも良いかもしれない。教科書も変わり、子供に求められる力が変わっている。どのように子供に接して、「学ぶ」という気持ちを促していくのかをぜひ考えてほしい。大人一人一人が考え、子供のコミュニケーション能力を育て行かないといけない。子供たちが自分で考え・納得する学びを実現することも重要になる。大学入試の改革を見ている、子供たちが学ぶべきことが変わっている。それに伴い保護者も学んでいかないといけないと思っている。

そのようなことを学ぶ機会にはなかなか無い機会である。学校からの説明だけで納得するのは難しい。学習指導要領を購入して勉強するのは手間がかかる。学校からの説明で全部を把握できるのは教育に精通している人じゃないと難しいかもしれない。

その点を捉え、学習指導要領をかみ砕いて説明してくれる講師を招いて Zoom で研修を試みるのも手かもしれない。

スマホの問題もそうだ。いつ持たせればよいかわからないかもしれないが、必要な時期に必要なものに触れていくことも大切であり、ネットリテラシーを高めていく必要は常に求められる。そういう事を学べる講師に Zoom で研修をするのも手かもしれない。

リアルに会う事だけが委員会活動ではない、家から Zoom などを使って会議をすることも可能になった。保護者が「学びたいことは何なのか」考えることは重要であると思う。それは保護者の教養・見識を高めるという目的に合致する、主体的に学ぶことも大切だ。PTA 活動に沿った目的だけでなく、学校の教育目標もある。その目的に沿いながら、杉並区の講師、外部講師を招聘し講演を企画することも良いと思う。この時節柄なので複数回実施する必要はない。

PTA 役員を率先して受ける人はいないと思う。消極的な動機で集まることが多い。しかし、日本人のポテンシャルは高いので、達成感のある活動を実現している。PTA 活動を効率的に負担を感じずに、楽しんで委員会のメンバーが「やって良かった」などの喜びの声を集める活動を“1回”やってみることは重要であると思う。

本日一緒に考えていきたい主題は「既存の活動を見直す勇気が必要」の考え方だ。諸先輩方が実施してきた事の棚卸をしてみてほしい。自分たちが楽しめる活動に転換できれば良いとおもう。

以下テーマに沿ってブレイクアウトルームを実施した

**** ブレイクアウトルーム①(30分) ****

自己紹介(お一人2分ぐらいで)

- ①お名前、学校、お子さんの学年、ご自分のPTA活動歴
- ②今回、どうして文化・成人委員に手をあげたのか？
- ③文化・成人委員として決められているお仕事は何ですか？
 - ③-1 今年度、それはやれますか？あるいはやれそうですか？
 - ③-2 今年度、やれないこと、あるいはやらなくていいこと
 - ③-3 コロナ禍だからやること

ここまで話したら次の方へ

全員①～③についてお話されたら...

情報交換テーマ(全員が話せるようお願いします)

- ④昨年度のコロナ禍、また今年度になってのコロナ禍、ご自分のお子さんの変化、クラスの変化について

参加者の意見発表

Q・コロナ禍でやらないこと、あたらしく始めること

- 給食試食会、茶話会などは実施しない方針。新しく始めるのはオンラインでの「思春期の子供を持つ親の為のコミュニケーション」というテーマで、保護者・教師の方向けに実施しようと考えている。オンラインでの講演会主催は初めてなので準備している
- 給食試食会は同様に中止となった。継続していることは制服リサイクルや保護者向けの講習会等を実施している。行事がなくなったことにより、子供同士のコミュニケーションが少なくなっているので、親目線でできることはないかという事を話し合った。
- コロナ禍で保護者が抱えている不安な点を、先生に相談をする Zoom でのイベントを企画していこうと考えている
- 制服リサイクルはリアルで集めていたが、コロナ禍を受けて回収ボックスを導入し時代に即して開催をしている
- 高校説明会と制服リサイクルは実施する予定

生重講師からのまとめ

過去の活動にとらわれず、柔軟な発想でオンラインを活用し、時代に即した、委員会活動を楽しんでいただければと思います。

セミナー名	中学校地域委員
日にち	5月18日(火)
場所	杉並区役所分庁舎 4階会議室
参加人数	会場聴講者1人、Zoom参加者21人
講師	武田信彦

 ●●● 内容 ●●●

本日は中学生地域委員の皆さまを対象に、防犯に特化してお話したいと思う。私は警察官でも自治体職員でも大学教授でもなく、皆さまと同じ一般市民の立場から、防犯について伝える仕事をしている。

私の専門分野は市民防犯、一般市民ができる防犯である。いわゆる防犯というのは警察が主導してきた関係で、その影響が色濃く残っており、不審者や犯罪抑止といった言葉が独り歩きしてしまい、いくつか誤解を招くことがある。防犯だからといってなんでもできるわけではない。私たち一般市民ができない防犯というものもある。そのあたりを丁寧に伝えていくことが私の仕事である。

そもそも、なぜ中学生の防犯をやらなければいけないか。日本には「いただきます」「ただいま」と、自分の足で出かけて自分の足で帰ってくる文化があるからである。海外では、大体13歳になるまでは子どもを一人で外出させない、というのが一般的な防犯の考えである。さらに中学生になると行動範囲や時間帯が広がっていく。環境的に、中学生が中学生だけの状況になりやすい社会という背景がある。もう一つが、犯罪はどこでも起きるという点である。刑法犯の認知件数は一見下がっているように見えるが、犯罪の種類ごとにみると、わいせつやストーカーなど横ばい、もしくは増えているものもある。犯罪の前兆事案もかなりの数発生している。犯罪の数だけで「うちの街では犯罪が起きていないらしい」「もうパトロールの必要はない」という判断はしてはいけない。

防犯対策を考えるうえで重要なのが、聖域を設けないことである。「ここは大丈夫」「世間様が見てくれている」などという勝手な安心感は、特にコロナで人とのふれあいが少なくなった今では通用しない。また、「この道は危険」という言い方をすると、「あっちの道は安全」と逆説的に聖域を設けることになる。犯罪は人がしでかすことであり、事前に予知することが難しい。聖域を設けないという意識を持ってお話を聞

いてほしい。

警察庁の資料によると、子どもが被害に遭いやすい場所として4か所抜粋されている。①道路（特に路地や片側が田畑など人通りの少ない場所）②駐車場・駐輪場（待ち伏せしやすい）③公園（子どもが複数人で遊んでいても注意）④集合住宅の共用部分（油断しがち）鍵を開ける瞬間の間などに注意が必要である。

ただ、これらの場所はあくまで傾向やヒントであり、答えではない。「空白」が生まれる瞬間、子どもが子どもだけになる瞬間をなくすことが重要。ポイントは一人ひとり違うということである。

ではどのようにして「空白」をなくしていくか。一人だけで行うのは無理である。地域、保護者、そして子ども自身。これらの力をつなぐことができ、子どもが犯罪被害に遭いにくい環境をつくることのできるのが、PTAの皆さまの存在である。防犯対策でいきなりここから始めると、子どもたちだけに防犯を押し付けることになる。その前に、大人の側でできることを取り組みながら伝えていく。

防犯対策で一番確実なのは大人の「付き添い」、しっかり付き添えるのであれば、できるだけ付き添ってあげるのが一番よい。押し付けるのではなく、付き添うことは、たとえ中学生でも男子でも過保護ではないと気づかせてあげることが大切。特にわいせつや声掛けは人がいないとき犯罪になりやすい。なので大人の存在が最強である。

とはいえ、仕事やライフスタイルの関係で常時付き添ってあげることが難しい。なので地域の方々の笑顔とあいさつによる「見守り・助け合い」が欠かせない。パトロールの意味に疑問を持つことがあるかもしれないが、ウェアを来ている、腕章をつけている人がいるだけで防犯対策になる。皆さまが防げる犯罪は、警察に捕まりたくない、人に見られたくないと強く思うタイプの犯罪である。力の行使や武器の所持は許されていないし必要ない。地域の皆さまが笑顔であいさつする姿そのものが、犯罪が起きにくい環境を作っていく。パトロールのデザインも柔らかいものでよい。

それでも地域の目が届かない、子どもが一人になる場面がどうしてもでてくる。そこで初めて子ども自身の「自分を守る力」が引き出される。丁度タイミングよく、「活かそうコミュカ！中高生からの防犯」という本を書いたので、内容の一部を抜粋させていただきます。もしご興味があれば、PTAでご活用いただきたい。

ここでいう身を守る力は、パンチやキックなどではない大前提がある。腕力を使うことは、加害者にもなりかねない。特に中学生に伝えなければいけないのが、正義と暴力は違うということである。過剰な暴力は許されていない。身を守る力とは家庭や学校で身につけたコミュニケーション力、知恵を発揮する分野である。

例えば、生徒同士のトラブルを防ぐのもコミュニケーション力である。コミュニケーション力を発揮する前に、まず観察力が重要となる。観察力がないと、「この人大丈夫かな」「この後どうなるのか」という想像力が働かない。ビビリと言われるくらいまわりに敏感な方が、自分を守る力があるといえる。

一番大事な護身術が、観察力の中でも予防力である。車のミラーのようにまわりに意識を向けることで、見られていると感じさせ、悪意にコントロールさせない、近づけない雰囲気をつくるリスク回避になる。この人は大声を出すのではないか、逃げるのではないか、抵抗されるかもしれないという要素は、人に見られたくない犯罪にとって抵抗力となる。

そして、2つの距離感、身体的なコントロールと心のコントロールを避けることが防犯である。身体的な距離は今でいうソーシャルディスタンス、中学生はあまり練習しないことで、距離感を維持することに実は慣れていない。そして心の距離感、インターネットやSNSの被害は、心をコントロールされることで犯罪が重大化しているので、身体だけでなく心の距離感を保つことが、護身術の大事なポイントとなる。

「たすけて」を言ったり、逃げたりするための道具が防犯ブザーである。声が出ないときに代わりにSOSを出してくれる役割と、大人をびっくりさせて逃げる時間を稼いでくれる役割がある。防犯ブザーは小学生までのものではなく、不安を感じる方がいたらためらわず持ってほしい。丈夫なものを選び、すぐ手が届くところに装着することがポイント。投げ捨てて使うことも想定されるので、くれぐれも名前、住所、電話番号は書かないようにしてほしい。

防犯というと、犯罪から身を守るという話になりかねないが、犯罪をしないことも防犯であると考えている。振り込め詐欺の受け子や不正薬物を持っていたなど、犯罪をしようと思っていなくても、気づいたら巻き込まれてしまっていた、というケースがある。寂しさや孤独感など、自分に自信がない状態は、まわりからの勧誘に対する抵抗力が弱くなる。子どもだけを責めるのではなく、まわりの環境を整えてあげることが不可欠である。

中学生になると、恥ずかしい、親に頼りたくないという思いが強くなる。しかし、誰かに頼らないと助からないことがある。助けを求めることや、相談することは恰好悪いことではない、ということを理解してほしい。

社会的にも、中高生を守ろうという動きが広がっている。ストーカーやDVなど、社会の問題として受け止めて対処しようとしている。警察の相談ダイヤル（#9110）や少年相談窓口、性犯罪被害相談電話（#8103）、性犯罪・性暴力ワンストップ支援センター（#8891）、法務省によるネットトラブルの相談窓口「子どもの人権110番」、

法テラス「犯罪被害者支援ダイヤル」、法務局「女性の人権ホットライン」、民間ではセーファーインターネット協会「セーフライン」など、たくさんの相談窓口が設けられている。随時更新されているので、皆さまでもアンテナを張っていただき、知っておくだけでも安心感が違ってくると思う。

防犯というと、犯罪者から身を守るといった感情が入ってしまいがちである。見守りや助け合いといった雰囲気づくりや、子どもたちへの防犯指導は、実は未来への重要なメッセージであると感じている。今なにか選択を間違えると、暴力や差別といった分断を、防犯によって生み出しかねない。暴力や差別、分断が生まれぬような対策を考えていけることが、本当の意味で強く安全な社会ではないかと考えている。なので、子どもたちへ防犯を伝えるときの言葉遣いや、PTA で防犯を共有するときの考え方、そういったものを伝えるとき、一旦立ち止まって、今日お話した防犯のエッセンスを取り入れていただきたい。

後半は4～5人程度のブレイクアウトルームに分かれて、以下の内容にて情報共有を行った。

・ブレイクアウトルームについて

- 自己紹介（一人1分程度、「学校名、お名前」）合計5分
- 現状の各校の防犯への取り組みを共有（一人3分程度）合計15分
- コロナ前後での取り組みの違い（一人4分程度）合計20分
- 余剰時間：皆さんの事例へのコメント（フリートーク）

セミナー名	小学校、中学校選考委員
日にち	5月18日(火)
場所	杉並区役所分庁舎 3階会議室
参加人数	Zoom 参加者 49人
講師	元 PTA 会長 平田敬子氏

●●● 内容 ●●●

今回の小学校、中学校選考委員向けセミナーは講師の 元 PTA 会長 平田敬子氏と、特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長 生重幸恵氏の対談形式で行われた。

平田：選考委員活動の大変さというのは、PTA 活動の大変さが選考を難しくするわけですよ。コロナ禍における各校の工夫点を共有して、どのようにすれば自校の PTA 活動が円滑に進むかのアイデアをこのセミナーで持ち帰りいただき、励みになるような場になればと思う。

生重：毎年平田さんに選考委員会講座の講師をお願いして、参加者の皆さんのリアルな意見やお悩みを聞きながら共有する場にしているが、今年は残念ながらリアルに会うことはできない。でも、選考委員の活動は続くので、どうやったら 21 世紀型になるのか、未来の PTA はどう変わっていくべきなのか、ただ、選考委員が PTA の仕事を変えられるわけでもない、PTA 役員会自体がどう変わっていくべきなのかという話が二人でできればいいと思う。

平田：そうですね。多くの学校では役員が単年で交代するので、課題を感じてもこの 1 年さえ頑張ればいいと思い、何とかしなくてはという気持ちが次の代に伝わっていないのではないかと。PTA は会則に則って活動しているので、単年では簡単に変えることはできないし、そのチャンスもない。そこが変わらない原因かなと思う。PTA 会員の総意をもって総会にかけてやっと次の年に変わるという、長いスパンで物事を考えなくてはいけないことが、PTA がなかなか変わらない一因かと。しかし、現状コロナ禍において、いろいろな活動を中止したり回数を減らしたりしていて、その結果どうなのかを検証するいい機会ととらえることもできる。やみ

くもにスリム化するのではなく、何が大事で何はやらなくてよかったねと話し合いをしたり、会員全体にアンケートを取って取りまとめる、などは今だからこそできるのではないかと感じている。

生重：負担をなくすということは、つまびらかになっている、つまり、これだけのことをこれだけの期間をかけてやります、と明らかになっていることだと感じる。午前中の文化委員・成人教育委員会セミナーの参加者のある方の話で、活動が3つあってそれを9人で分担しているので、1つの活動を3人でやっている。9人全員で集まって仲良くなることはないが、役割分担が明確にできているので負担がない、という話だった。PTA 役員会の活動も同様に、それぞれの立場の方の役割が明確であれば、受ける側も負担感も減るのではないかと前々から思っている。

平田：選考の場面で「たいした仕事じゃから大丈夫」と言っておいて、ふたを開けたら「話が違う」というのではなく、「仕事はこれだけあります」と包み隠さず明らかにしたうえで、「ただし、やり方によってはこれだけにできますよ」と示し、騙しのない選考活動を行うのはとても大事だと思う。また、A さんにとってはたいした負担ではないが、B さんにとってはすごく負担だということもあるので、それを皆で分かったうえで協力してやっていこう、という活動になるといい。

生重：子どもたちの幸せで安心・安全な環境を保障していく、ということが PTA の本旨であるので、その本旨を違えずにうまく効率化していくかということを考えることが大事だと思う。

平田：PTA 活動はなくならないと思う。役員のみならず、という話はたくさん聞く。PTA をなくしたという学校もある。しかし、やりたいことがあるのに組織がなくて結果事務局が復活した、などという話もある。一回なくすなどという荒療治をせず、いい着地点を見つけられるといいなと思う。

生重：多摩の統合校が PTA をなくして 10 年になり、もう一度復活させるのにどうしたらいいか、という相談を校長先生から受けたことがある。一方、「みんなの学校」の舞台になった大阪市立大空小学校には PTA はないが、自主的に子どもたちのために活動をしたいという地域の方たちがチームを作っている。各活動には活動を統括するキャプテンがいて、キャプテンの集まりから総合キャプテンが選ばれる

という仕組みになっている。大阪市 PTA 協議会の集まりには、総合キャプテンではなく、各チームが順番に参加して負担を軽減している。コミュニティスクールの委員もキャプテンが大半を受けている。つまり、PTA 活動と近いことをこのキャプテンシップで行っている。唯一の違いといえば、現役保護者ではない人が半分ほど入っているということではないか。この例のように、いろいろなやり方があるのではないかと思う。

しかし、義務教育下の現役保護者という人生でたった 9 年間しかない立場はとても貴重なもので、その時期に学ぶことや得られる情報はとても大きく、その中で学び合える環境として PTA 活動は必要だと感じる。

平田：PTA に所属するということは、そこを経て、子どもが学校を卒業してからも社会の中での地域活動の担い手になるという意味もある。子どもは学校だけでは育たないので、地域で子どもを育てる、その担い手という役割も担うという点も重要だと思う。

生重：昨日、会長・副会長のセミナーにお招きした加藤さんがおっしゃっていたのが、PTA の仕事を引き受けたことで、仕事では得られない地元でのネットワークができたという点だ。仕事の上下関係もない、平らな関係が地元に来ることの素敵さをお話されていた。

平田：男性にとっては地元活動の入り口としては最適だと思う。

生重：ママ達はママ友ネットワークがあるけれど、母からの目線。学校での活動も父目線と母目線では違うことがあるかもしれない。PTA は今まで逆差別になっていたのかもしれない、もっとパパたちに入ってもらっていいのではないか。男性目線で PTA 活動の合理性を考えることにより、ママ達の負担軽減にもつながるのではないか。平田さんは男性の PTA 参加についてどう考えるか。

平田：フルタイムで仕事をしている女性も、ITC に詳しい女性もいる。多様性ということ考えると女性だから男性だからということではなく、スキルとして得意な人が得意なことを手伝ってくれる環境になればいい。子育てに母も父もない。やれる人がやれることをやればいい。コロナによって、ここはやはり対面での活動が必要だよ、ここは簡略化して済んだけどこれでいいよね、という風に、あぶり

だされた活動の実態を来年度以降に生かしてほしい。一生懸命さとは、時間をたくさん使うことではない。また、理由があってそれぞれの方がそれぞれの暮らし方をしているので、決して決めつけてはいけない。多様性が PTA そのものなのだから、皆が良いほうに向かおうとすることが健全で素敵なことだと思う。

生重：選考委員は大変な仕事だと思う。まずは PTA 役員の皆さんが、どうやったら PTA 役員の仕事を明確化できるのか、どうやったら現役会員の負担が減らせるのかを話し合い、PTA 改革を進めていただきたい。それでやっと選考委員が、負担なく明確な選考を進めることができると思う。コロナ禍を経て、残すべき大切なもの、そうでないものが見えてきたと思う。よく話し合い、身を軽くできるかどうか、今年度・来年度にかかっているのではないかと感じる。

平田：今年度の選考委員はなり手が多、コロナによって仕事がすくないからという話を聞いた。それをラッキーと思うかどうか、子育てする親としてどう思うか。

生重：子どもが小さいうちにしかできない人間関係がある。負担にならずにできるのが一番いい。お互い勉強し合っていくこと、そこをどう残していくのか。ここで整理して、クリアにして、「さあどうですか、やってくれませんか」と言える環境にしたい。

平田：人によって負担感が違うことも。どこでも物おじせず意見を言える人ばかりじゃないということも皆が理解して、PTA をいろいろな人が関われる小さい社会にしなくてはならない。選考委員の辛さの一つに、「出来ない理由の打ち明け話」を聞かなくてはならないこともある。「私の秘密」を打ち明けないと免除されない、罰のような PTA 活動はダメだと思う。そうならないように、いろいろな立場の人がいて、皆が許し合って、入らない人がいてもいじわるしない、それが健全。皆にとってどうすればいい状況になるのか考えることも勉強になる、それも PTA の存在意義の一つであり、自分も成長すると思う。この活動は「私の身になっている」と自分で納得してやっていただきたい。

※この後ブレイクアウトルームに移行。

自己紹介 (1 分程度)、その後「コロナ禍での新しい PTA 運営の工夫を紹介」しあって、情報共有してもらった。

参加者の意見発表

- 小学校での活動だが、定期総会の手紙に QR コードが付いていて、それを読み込むとアンケートに答えたり議決を受け付けたりできるようになっている。なるべく集まらないでもネットでできる環境を今整えている。
- グーグルフォームで PTA 会員にアンケートを送って、第三希望まで出していただいて役員決めをしている。
- スムーズに決まる年もあるし、決まらず大変な年もある。会長が決まると、その方の友達が引き受けてくださったりする。
- 昨年度コロナ禍のため、互選会参加者を選ぶ会を中止してアンケートで立候補を募ったらとてもスムーズに進んだので、今年度も同様にしようと思っている。また、今まで互選会参加者はひとつの学年から何人という縛りを付けているため、高学年では人選に苦労した。昨年度から互選会参加者を学年問わず全学年から 30 人としたら、低学年保護者からの参加が多く、互選会でも役員がスムーズに決まった。選出方法の変更については、昨年度は会則の改定ができず運営委員会での報告としたが、今年度は議事を挙げて承認を取り、会則の改定をする手順に入っている。

平田講師からのまとめ

学校の実態や規模にあった選出の方法を尊重したい。しかしながら、どの学校でも PTA の存在意義は同じで、民主的に行うこと、皆の自主的活動であること、独立していること、という点は自覚して活動していただきたい。また、先生方も PTA の一員であることを念頭に活動できるといいと思う。選考委員会の方々は、学校と保護者との繋ぎ役である PTA 役員を選ぶのだ、という気持ちを持って選出に臨んでいただきたいと思う。

まずは、会計の原則を知ろう！
この原則通りにするのが基本ルールと考えて臨もう！

文責：井上尚子

■ PTA 会計の仕事

- ① 予算の実行（入出金管理）
- ② 記録をとる（帳簿をつける）
- ③ 決算書の作成
- ④ 次期予算案の作成
- ⑤ 総会での報告

■ 予算の実行

- * 予算とは、1年間の PTA 活動（事業）を実行するための資金（収入と支出）計画 である。
- * PTA の活動と予算は連動している。
 - ◇ 総会で活動計画を示し、活動に必要な予算を提示し、会員に合意を得る。
 - ◇ そのうえで、活動に合わせた入出金管理を行う。
 - ◇ 最後に決算報告をし、実際にどのように使われたのかを説明する。

■ 記録をとる 金銭出納帳、預金出納帳、備品台帳などに記入

* 金庫（小口現金）の管理

- ◇ 入金と出金については、必ず証拠書類と引き換えに行う。
- ◇ 金種表を作るなどして、現金残高は常に確認する。
- ◇ 帳簿（金銭出納帳）の残高と、実際の現金残高が同じか確認する。

* 通帳の管理

- ◇ 帳簿（預金出納帳）の入金と出金が、通帳と同じか確認する。
- ◇ 帳簿（預金出納帳）の残高と、通帳の残高が同じか確認する。
- ◇ 通帳管理者と銀行印の管理者を別に定めるなどして、入出金の際は複数人で確認できる状況をつくる。

* 備品台帳

- ・ 備品とは、使用見込年数が1年以上で、長期間にわたり繰り返し使用できるもの
 - ◇ 購入月日、種類、数量、金額、管理番号等を記入する。
 - ◇ 見積書や納品書、保証書なども合わせて保存する。
 - ◇ 備品の購入について、予算に計上していない高額な物品を購入する場合には、運営委員会（実行委員会）に諮り承認を得る。
 - ◇ 各委員会から余った予算で備品を購入する要望が出ても、その委員会だけで判断しないようにする。

■領収書の受取り方

- ◇ PTA の分は PTA の分だけで会計し、個人の買い物と混ぜないこと。
- ◇ 領収証を発行してもらうこと。レシートは補助的なもの。
- ◇ レシートをもらう時に、事前に「領収書とレシートの両方がほしいので、両方出してほしい」と伝える。
- ◇ 領収書の宛名は必ず「〇〇学校 PTA」と記載してもらう。
- ◇ 個人から受け取る領収書は「住所」「氏名」「内容」「朱肉印」が必要。特に講演謝礼など個人から領収書を受け取る場合は、シャチハタでなく朱肉印にて。
- ◇ 慶弔費など領収証が発行されない支出については、その明細を残す。
- ◇ 市販の出金伝票を使用すると便利（パソコンで作成しても可）案内状などを残し、相手がわかるようにする。
- ◇ ネット通販の時は領収書の宛名に注意（個人名にならないか事前に確認する）。

■領収書の発行の仕方

- ◇ 通し番号を記入すること。
- ◇ 控を保存すること 複写タイプの領収書が便利。
- ◇ 記入間違いをした場合は切り取らず、大きく斜線を引き、折りたたんでステープラーで止めておく（無用な疑いをかけられないために）。

■銀行口座の管理

- ◇ 出来る限り振込みを使う。記録が通帳に記帳されるので、証拠として残しやすい。
- ◇ 支払いに関しても、一件、一件引き出す方法もある。帳簿をつけるのが楽になるが、ATM で時間がかかる。
- ◇ 通帳と印鑑は別々の人が管理し、入出金するときは二人で行くようにする。
- ◇ 不便ではあるが、カードは作らないほうが危険は減り、盗難防止の意味もある。

■仮払いについて

- ◇ 申請書と精算書を必ず作成すること。申請書兼精算書として一枚にするケースが多い。
- ◇ 申請書には、金額、承認印（例 会長と会計）、支出目的、領収日、申請者の氏名と捺印。
- ◇ 精算書には、精算日、支出内容、支出合計額、仮払金額、精算額、確認印（例 会計） 支出と領収書が一致しているか確認する。

■積立金について

- ◇ 周年行事のための積立金、高額な物品（印刷機など）の購入のための積立金などが多いが、積立金は、何のための積立金なのかを明確にする。
- ◇ 余った予算を「とりあえず」積立金に回す傾向がある。目的、金額などをしっかりと決めたいうで実行する。

■決算と予算

- ◇ その年の会費はその年に使い切るのが原則。無理な節約は繰越金を増やす。
- ◇ 正当な活動をしているにもかかわらず予算が余るとしたら、予算と活動が見合っていない。
- ◇ ただし、翌年度の会費が入ってくるまでは前年度の会費で活動を続けて行かなければならないので、繰越金を設けて準備する。繰越金は、全体予算の10%程度が妥当と考えられる。

■会費の値上げと値下げ

- ◇ 活動にあたって必要な予算としての会費であることを意識する。
- ◇ 節約のために、委員会が無理に節約していないかを把握する。
- ◇ 値上げに比べて、値下げは安易に考える傾向がある。単年度で判断せず、予算が余る理由をしっかりと確認する。

■会計監査

- ◇ 監査は、記載間違いがないか等を見つけてもらえるチャンスと捉えよう。
- ◇ 年に2回以上の機会があると良い。
- ◇ 監査では、通帳原本と関係書類との照合を行う。また、関係書類がない等、不明な入出金がないかをチェックする。

■帳簿や領収書の保管

- ◇ 最低でも5年以上保管する。ただし、PTA の場合は周年事業の積立金などとも関連するので、10年間保管が望ましい。

■最後に

- ◇ お金を扱う場合に、一番大事なことは証拠となる書類を残すこと。面倒かもしれないが、常に書類を残すということを意識する。
- ◇ お金の支払いは、常に書類との交換。書類がない場合には金銭のやり取りはしないと強く心にとどめる。

会計・会計監査のチェックリスト

■通帳の管理について			
	通帳、印鑑は施錠された場所に保管しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
	通帳と印鑑は別々に保管しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
	通帳、印鑑はそれぞれ管理者を決めているか	<input type="checkbox"/> 決めている	<input type="checkbox"/> 決めていない
■通帳の記録について			
	通帳の前年度末の数字が、前年度末の帳簿および前年度の決算報告と一致しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
	通帳の今年度末の数字が、今年度末の帳簿および今年度の決算報告書と一致しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
	通帳の記録に不自然な出入りや、用途不明な出金はないか	<input type="checkbox"/> ない	<input type="checkbox"/> ある
	振込の記録と振込にかかる資料が一致しているか ・請求書、振込金受取書、ATMの利用明細等	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
	入金の記録と入金にかかる資料の金額が一致しているか ・PTA会費の明細、ATMの利用明細等	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
	複数の通帳がある場合、その全てについて上記を確認しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
■帳簿の記録について			
	現金出納帳に記載している経費と領収書が一致しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
	領収書に記載漏れはないか（金額の訂正は無効） ・日付 ・宛名 ・内容 ・金額 ・発行者の住所、名前	<input type="checkbox"/> ない	<input type="checkbox"/> ある
	領収書の宛名が正しく記載されているか ・〇〇学校 PTA	<input type="checkbox"/> されている	<input type="checkbox"/> されていない
	複数商品を一度に購入した時、領収書に加えて明細が分かる資料があるか	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
	領収書のないものについて、代わりとなる書類があるか ・慶弔内容の案内や礼状 ・日付、金額、相手先が分かる資料等 ・PTA活動での購入物であることを証明できる資料があるか	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
	残高の計算に謝りはないか ・パソコンでの帳簿での数式の間違いはないか	<input type="checkbox"/> ない	<input type="checkbox"/> ある
	実際の小口現金と帳簿の残高が一致しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
■備品の管理について			
	備品台帳を保有しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
	備品台帳に記載された備品が実際に存在するか	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない
	購入した備品の請求書や納品書等が保管されているか	<input type="checkbox"/> されている	<input type="checkbox"/> されていない

個人情報の保護について

平成 29 年 5 月 30 日からの個人情報保護法改正に伴い、PTA も遵守すべき団体として位置づけられた。

守るべきこと

- ① 個人情報を取得する際、**何の目的で利用するのか**を**本人**に伝える
- ② 取得した個人情報を、**決めた目的以外に使用しない**
- ③ 取得した個人情報を**安全に管理**する
- ④ 取得した個人情報を無断で**他人に渡さない**
- ⑤ もし「自分の個人情報を開示してほしい」と本人から言われたら断ってはならない

そのために PTA として、どのような対応をすればよいか

- ① 事前に同意の取り方、配布、管理の方法を話し合い、**ルールを作る**
- ② どこまでの情報を得ておけばよいかを考え、**必要以上の情報は収集しない**
- ③ 同意が得られない場合は、名簿に載せないなど必要な対応をする
- ④ **保管期限**を決めて、適切に処分する
- ⑤ **管理方法**（管理場所・管理者）を決めて対応する

PTA オンライン化のすすめ



NPO法人ハピタ
加藤 拓也

自己紹介



PTA六校連総会にて

加藤 拓也

- ヤフー勤務
- 本業の傍ら「PTAをハッピーに」の理念を掲げてNPO法人ハピタ設立
- 子供3人
- PTA略歴
川崎市立久本小学校 副会長
世田谷区 東京農大一中一高 顧問
横浜市立東高等学校 副会長

もともと…

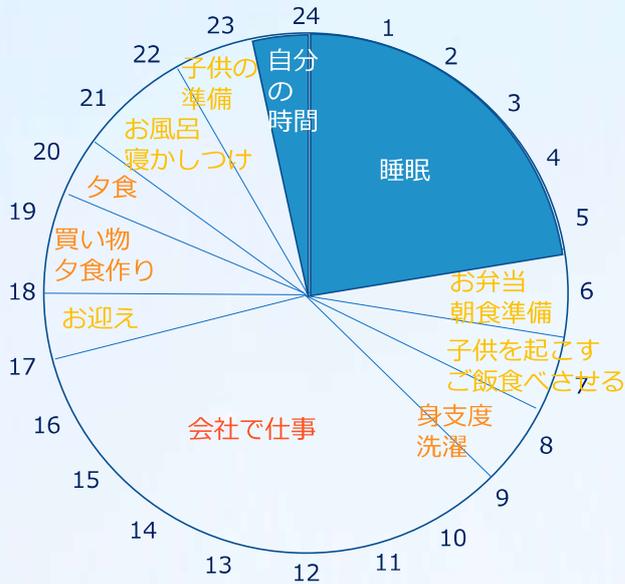
PTAとは無縁

きっかけは嫁の一言



※写真は妄想です

嫁の一日



働くママの平日
= 戦場

家事

育児

仕事

久本小学校 (川崎市高津区) PTA副会長



ハッピーな2年間

- ①家では見られない子供たちの顔
- ②先生たちから学校情報
- ③ママ友、パパ友の和
- ④PTA主催イベントの達成感

7

- ①家では見られない子供たちの顔
- ②先生たちから学校情報
- ③ママ友、パパ友の和
- ④PTA主催イベントの達成感

8

一方で…

ママたちのほとんどは、
PTA嫌い
やりたくない
関わりたくない

9

PTAにはいろんな課題が…

係によって負担
が全然違う。
不公平。

PTA会費、何に
使っているの？
不透明。

その係って**必要**？

そもそも
任意なのに
半ば**強制**。

毎年**人が変わる**

10

PTA加入への疑問

「PTAは本来、任意活動であるはずなのに、全員参加のような雰囲気がある」

全員が活動することへの疑問

「PTAは本来任意制なんだから、そうすべき。ママの中にはPTAをやりたいって人もいるし、そういう人たちに任せたらいいじゃん」

活動がボランティア（無報酬）ということへの疑問

「みんながPTA活動に消極的なのは、見返りが全くない“ボランティア”だから。報酬を出せばおのずと任意制で回るようになるはず」
「陰湿な人間関係やムダとしか思えない会議への出席も、報酬が出るなら耐えられるし、モチベーションも上がる」

本当に子どものためになっているのかという疑問

「仕事に家事に育児、その上PTAの活動となると子どもとの時間は減るに決まっている。夜中の集まりもあって、小さい子どもがいる家庭はどうすればいいんだ、って感じ。むしろ親に悪影響を与えているだけ」
「PTAをすることによって子育ての余裕がなくなり、イライラしているのを子どもにあたってしまっ、では本末転倒」
「子どものための活動なのに、なぜかいつのまにか学校のためだけの活動になってしまっていると感じる」

メリットもあるという声も

「ママ友が作れる」
「学校の様子を詳しく知ることができる」
「PTAがないと学校がうまく回らない」
「担任の先生との関係を深められる」
「やってみたら、たくさんの親と話せるようになったし先生とも仲良くなれた」
「学校に向かう機会も増え、学校と子どもと親がつながれる良い機会に。今でもそのPTAで仲良くなった人たちと先生とは連絡を取り合っている」

古い意見も

「子どもへの愛情があるなら、全員参加が基本」
「やっぱりPTAはなくてはならないし、負担を平等にするためにも全員参加すべきだと思う。ただ、家庭環境によって負担の割合を軽減したり、なるべくムダな時間を減らすような努力は必要だと思う」

ムダな会議

「平日昼間からの会合（特に意味のある会話なし）」
「本来「プリントに目を通しておいて」で済むはずの情報をわざわざ会議を聞いてダラダラと説明したり、平日の昼間に集まったと思ったら、ランチを食べながら来ない人の悪口を延々言って終わる」

空気感が嫌

「ママ友の派閥争い」
「嫌とは言えない空気がある」
「和を乱したら子どもがいじめられるんじゃないかという怖さがある」

やりたくないという人がほとんど

「殺伐とした役員決め」
「役員選出の際に、その場の全員がうつむいて無言になり、遅い時間になってもなかなか決まらない」
「夜の10時に4～5人のママに突然訪問されて「PTAやってくれない？」と1時間ぐらいいごねられた。」

ママ独特のことなかれ主義

「こっこのやり方がいいと思っても「いつもこうだから」と言われる」
「委員会などの長が意思決定できない。責任取りたくないからだから合議制を取ろうとしてムダな集まりがやたらと多い割に結論が出ない」
「基本的に前年踏襲。ずっと非効率なやり方が変わらない」

すぐくアナログ

「紙の配布物がやたらと多い。配布の仕分けやホチキス止め、製本なんかでも大変」
「学校の古い印刷機をやたらと壊れるし、壊れたら教頭を呼んで直してもらえない」
「印刷をコンビニでやると10円かかるから公民館で5円でやれと言われる。こっちは働いているのに、公民館のやってる時間になんか行けない」
「出欠票や委任状の集計が手作業。めっちゃ大変」
「お金の徴収が紙と封筒でいちいち会計が大変」「お金がこども経由のときは怖い」

活動や運営が非効率的

「イベントの運営委員として行ったけど、この待ち時間は何？というムダならだら時間に苛立った」
「9時からだから午前中で終わると思って半休にしていたら、いつまで経っても終わらずイライラした」

活動内容への疑問

「お菓子を配ったり、ヘルマークを集めたりとその仕事が終わって親に半強制的にさせる仕事か？って思う。これだったら会費を払って外注してくれた方が体力的にも精神的にも全然楽」
「大した仕事じゃないし、わざわざこれを親がしなくてはならない意味がわからない」
「無理やり仕事を作っているだけの気がする」
「活動自体に全くやりがいや意味を感じない、それなのに無駄に人間関係に疲れたり、時間を拘束されたりする」
「今度子どもが小学校を卒業するけど、正直必要性は全然感じなかった。ムダな仕事が多いし、目的があいまいでグダグダだった」

PTA検索数



「PTA」 関連検索クエリランキング

- 1 PTA
- 2 PTA とは
- 3 PTA 役員決め
- 4 PTA グランパ
- 5 PTA 廃止
- 6 PTA 医療
- 7 PTA 入らない
- 8 PTA 会長
- 9 PTA 役員
- 10 PTA総会 会長挨拶
- 11 PTA 挨拶
- 12 PTA 退会
- 13 PTA総会 服装
- 14 PTA グランパ2
- 15 PTA 広報誌
- 16 PTA会長 卒業式 祝辞
- 17 acceptance
- 18 PTA会長 挨拶
- 19 PTA役員 断り方
- 20 卒業式 祝辞 PTA会長

13

そこで…



PTAをhappyに！
NPO法人ハピタ設立

14

NPO法人ハピタ

設立 2018年7月24日
所在地 川崎市高津区久本
メンバー 20名



代表



エンジニア



デザイナー



広報/調達



営業



コンサル



税理士



弁護士

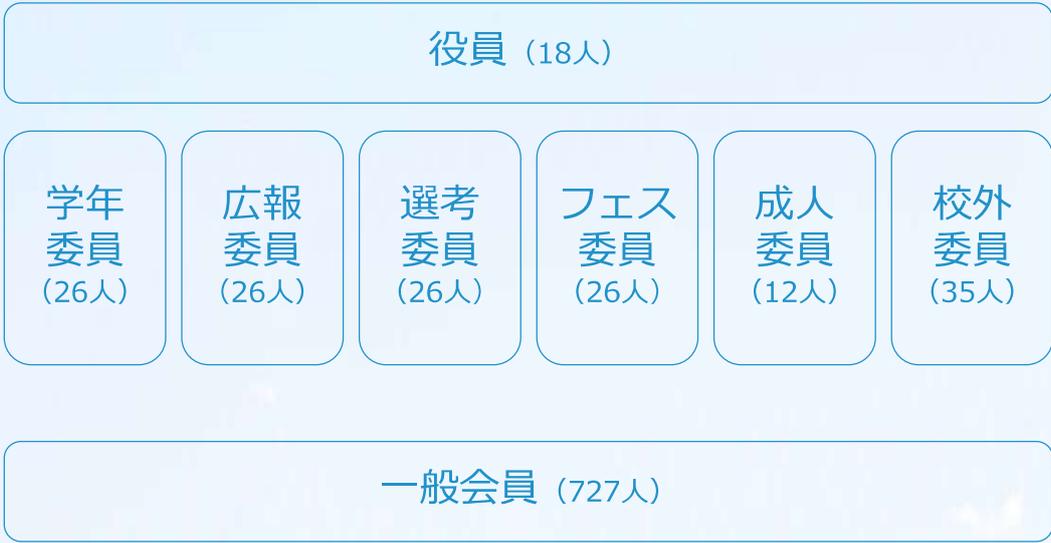


1st

デジタル化



PTA組織図



PTA組織図

**総稼働時間
= 19,690時間**



いまだに紙の連絡

集まっでの会議

封筒に入れての集金

ママのスマホ保有率

デジタル化で 大幅効率化

21

ジョブリストを可視化
役割登録もデジタルで
広報誌をデジタル化
コミュニティ化・オンライン会議



紙コストを大幅削減
平日や昼間の集まりを大幅削減
パパの参加も期待できる
コロナ禍で“密”を回避

22

ハピタ haPiTA

PTA運営効率化ツール



自分宛ての情報だけが
タイムライン形式で表示

- ・ 情報の種類
- ・ どのグループ宛て

ラベルで一目でわかる



新規投稿

25



26



- ✓ お知らせ
- アンケート
- 投票
- 募集
- 安否確認

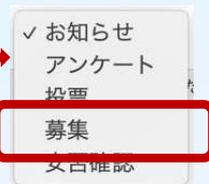
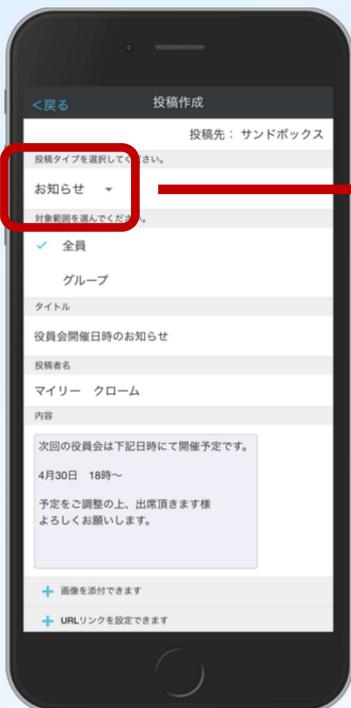


- ✓ お知らせ
- アンケート
- 投票
- 募集
- 安否確認



オンライン総会が可能に

※withコロナに最適





お手伝いの募集が可能

PTAの“ホワイト化”
をサポートする相棒に

地域連携にも

31



メンバーの検索も簡単

32



グループの作成も簡単

33

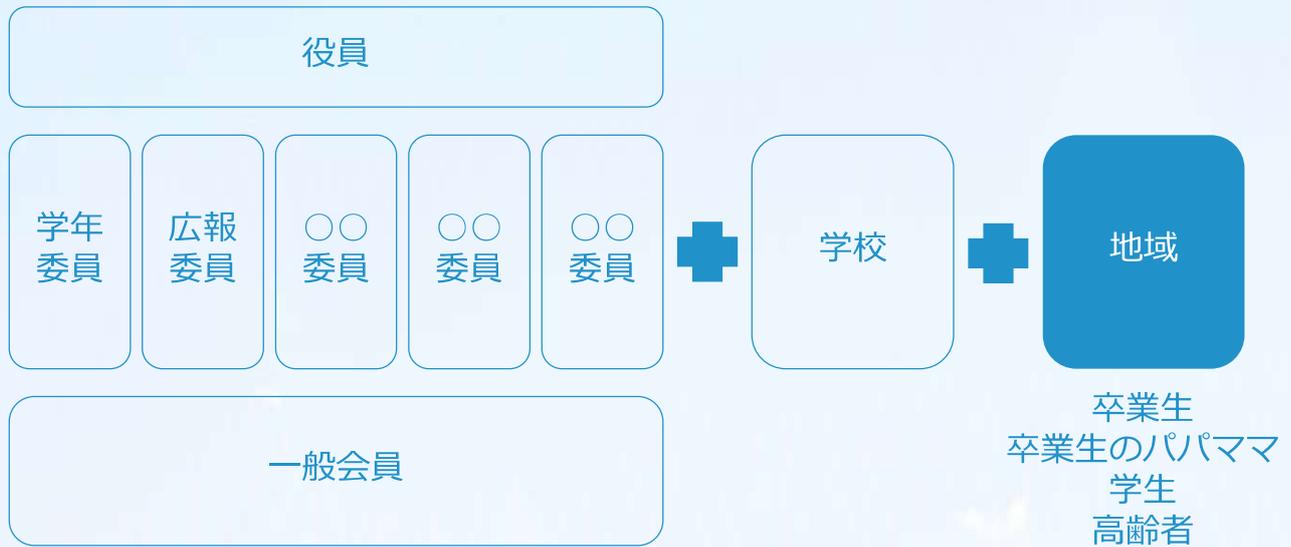
PTAツール導入のメリット

	ブラックPTA	ホワイトPTA	コロナ対策	PTAツール
①入会	半強制	任意	オンライン	加入のみ登録
②個人情報	学校と共有	独自取得・同意	オンライン登録	氏名のみ
③会費	口座を共有	独自に徴収	オンライン決済	突合処理
④会計	不透明	納得感	オンライン承認	投票機能
⑤活動	無駄な活動	子供のための活動	接触回避	オンラインMTG
⑥稼働	強制割り当て	自発的に自由に	接触回避	募集機能
⑦成果	見えない	見える化	オンライン確認	アルバム機能 レポート機能

PTAをホワイトに！ & コロナに強いPTAに！

34

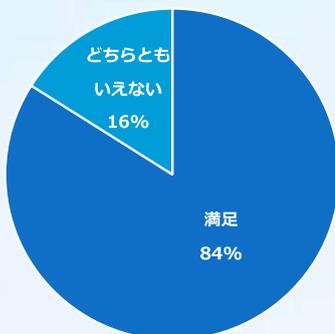
PTA巻き込みイメージ



35

PTAツールの使用感アンケート

満足度



メールやLINEだとやり取りが流れて埋もれていき、内容の把握がしづらくなりますが、単独ツールだったので分かりやすかったです。



アナログな私でも分かりやすく、他のグループの区別もしやすくてとても助かりました。ありがとうございました。



ファイルを共通で保管できるところが便利。



iPhoneにアプリをダウンロードできるのがとても便利でした（通知のお知らせがすぐ分かるので）。



通知が来るので見落とすことなく便利でした。

36

Case Study

事例：東京農大一中一高



役員会議スケジュール

日時	活動	手法
2020年 5月23日（土）	役員会議	Zoom会議
6月27日（土）	役員会議	Zoom会議
7月25日（土）	役員会議	Zoom会議
8月1日（土）	役員会議	Zoom会議
8月22日（土）	役員会議	Zoom会議
10月24日（土）	第1回役員会、第1回全体委員会	Zoom会議
12月12日（土）	第2回役員会、第1回学年委員会	Zoom会議
2021年 1月9日（土）	第3回役員会、第2回学年委員会	Zoom会議
3月13日（土）	第4回役員会、第2回全体委員会	Zoom会議

会議をすべてオンライン化

会議開催手順

①スケジュール調整



役員間のコミュニケーションツールを活用して会議スケジュールを調整、決定します。

(例：ハピタPTAツール、LINE、メール、リスト等)

②ZoomURLを告知



ツールで参加者にZoomのURLをお知らせします。

③会議開催



時間になったらZoomを起動し、適宜スライド等を画面表示させながら会議を開催します。

④議事録送付



翌日、関係者に議事録を送付します。(オンラインにて)

オンライン講座 (外部講師セミナー)

日時	活動	講師	参加人数
2020年 9月26日 (土)	第1回オンライン土曜講座 「中高生の食事と栄養」	東京農業大学栄養科学科 多田由紀准教授	216名
11月2日 (月)	第2回オンライン土曜講座 「疲れないカラダ作り」	JOCメディカルスタッフ 部谷祐紀先生	151名
12月5日 (土)	第3回オンライン土曜講座 「子どものこころの見守り方」	スクールカウンセラー 菅野先生、廣内先生	224名
2021年 1月30日 (土)	第4回オンライン土曜講座 「デマに感染しない情報収集」	元TBS報道局アナウンサー 下村健一先生	160名
2月20日 (土)	第5回オンライン土曜講座 「思春期の子のお片付け講座」	親・子の片づけ教育研究所 橋口真樹子理事	166名

すべてZoom配信に。参加人数が大幅増！

オンライン講座開催手順

①開催のお知らせ



全保護者へオンラインツールを活用して講座開催のお知らせし、参加者を募ります。
(例：WEBでお知らせ、ミマモルメ等)

②ZoomURLを告知



参加者にZoomのURLをお知らせします。

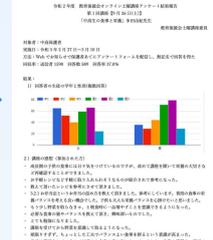
③オンライン講座開催



時間になったらZoomを起動し、管理者は参加者を承認していきます。
司会は質疑応答を受け付けます。

※アーカイブ配信する場合も

④アンケート送付

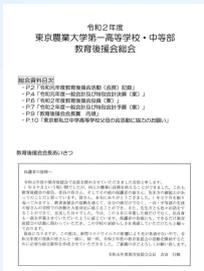


講座終了後、アンケートに回答してもらいます。
(講師にもフィードバックします)

オンライン総会開催

総会もオンラインで開催。承認者も大幅増！

①総会資料作成



- ・前年度活動記録
- ・前年度決算報告
- ・今年度役員案
- ・今年度活動計画案
- ・今年度予算案

②オンライン決議



全保護者に総会資料を配布、アンケート機能を活用して議決承認。

③報告書作成



アンケートを集計、報告書を作成。

④オンライン報告



全保護者に報告書を送付。

公開日：2021/03/19(金)

PTAのオンライン化、コロナ禍で加速 「しなくてもいい活動」を整理、「今必要な活動」広がる

今川 謙吾 【2021年3月19日付 東京新聞朝刊一部加筆】



コロナ禍で、PTA活動も大きな変化を迫られた。実際に顔を合わせる機会が減り、活動を縮小・休止したPTAも多かった。その一方で、ビデオ会議システムなどのオンラインツールを活用し、新たな試みに挑戦する動きも出ている。「しなくてもいい活動」が整理され、コロナ禍からの課題だった活動の効率化が進むとともに、「今必要だ」と感じる活動に取り組み余裕も生まれている。



活動停止の危機、役員らの提案で一転

この1年、PTA活動は新型コロナウイルスに振り回された。名古屋市立小中学校PTA協議会が昨年10月に行った調査では、回答した306校のPTAのうち、69%が「2020年度に一度も行事・イベントを行っていない」と答えた。

東京都青梅（おうめ）市の今井小PTA会長の相馬健一さん（41）も「正直、活動が止まると思った」と昨年4月の状況を振り返る。一斉休校が年度をまたいで続き、活動拠点を学校に集めることすらできなくなっていた。

そんな流れを変えたのはあるPTA役員らの提案だった。「オンラインなら会わなくても話し合えますよ。やってみませんか」

「子ども残して会議に行かずに済む」

役員らはビデオ会議システムの使い方を学び、夏には9人全員でオンライン会議を開けるまでになった。以前は学校に集まって行っていた会議に自宅から参加できるようになり、「食事や風呂、寝かしつけなど一番忙しい時間帯に、子どもを家に残して会議に行かずに済む」と相馬さん。とりわけ未就学児がいるメンバーが参加しやすくなった。

2月には保護者向けオンラインセミナーも開いた。家族で過ごす時間が増える中、より良い親子関係づくりのヒントを専門家から学ぶというタイムリーな内容。約20人が参加し、「家にいながら話かけて有意義だった」と好評だった。相馬さんは「時間や小さい子がいるなどの制約があった人が参加しやすくなった」と指摘。オンライン化がPTAの裾野を広げていくと感じている。

回も集まらずにオンライン講座5回

東京都世田谷区の東京農業大第一高校・中等部の保護者と教職員がつくる「教育後援会」は2018年度から、委員会ごとの情報発信や、ファイルの共有ができるPTA運営支援ツールを導入。2020年度は一度も集まることなく、5回のオンライン講座を企画し開催した。副会長の福井聖子さん（43）は「コロナ下の生徒の見守り方を学校カウンセラーから聞いたり、子どもと一緒にネットリテラシー（ネットを適切に使いこなす力）について考えたり、今まさに親子に必要なことが学べた」と話す。



PTA運営支援ツールを使うと、連絡が簡単に

1回も集まらずにオンライン講座5回

東京都世田谷区の東京農業大第一高校・中等部の保護者と教職員がつくる「教育後援会」は2018年度から、委員会ごとの情報発信や、ファイルの共有ができるPTA運営支援ツールを導入。2020年度は一度も集まることなく、5回のオンライン講座を企画し開催した。副会長の福井聖子さん（43）は「コロナ下の生徒の見守り方を学校カウンセラーから聞いたり、子どもと一緒にネットリテラシー（ネットを適切に使いこなす力）について考えたり、今まさに親子に必要なことが学べた」と話す。

杉並区立小中学校PTA活動セミナー2021 ー小学校、中学校 学級委員ー

今こそ 子どもたちのための PTA活動を

一般社団法人みたかSCサポートネット
代表理事 四柳 千夏子

1

あなたが抱く「PTA」のイメージは？

3

****本日の流れ****

私の自己紹介+このあとの説明	8分
ブレイクアウトルーム①	20分
戻ってきて共有タイム	10分
話題提供	15分
ブレイクアウトルーム②	15分
戻ってきて共有タイム	10分
まとめ	5分

2

****ブレイクアウトルーム① (20分) ****

自己紹介 (お一人2分ぐらいで)

- ①お名前、学校、お子さんの学年、ご自分のPTA活動歴
- ②今回、どうして学級委員に手をあげたのか？
- ③学級委員として決められているお仕事は何ですか？
 - ③-1 今年度、それはやれますか？あるいはやれそうですか？
 - ③-2 今年度、やれないこと、あるいはやらなくていいこと
 - ③-3 コロナ禍だからやること

ここまで話したら次の方へ
全員①～③についてお話しされたら...

情報交換テーマ (全員が話せるようお願いします)

- ④昨年度のコロナ禍、また今年度になつてのコロナ禍、ご自分のお子さんの変化、クラスの変化について

1) メモをとりながらお話しください。
2) メインルームに戻ったら発表をさせていただきますので発表者を決めてください。

4

正解はありません。 クラスの子どもたちのために

PTA

5

PTA

****ブレイクアウトルーム② (15分)****

今、子どもたちに何が必要か？
 PTA、つまり私たちに何が出来るか？
 密になれない、集まらない、ネット活用
 こんな時に「学年」「学級」のまとまりでできることを考えてみましょう。

1) メモをとりながらお話しください。
 2) メインルームに戻ったら発表をしていただきますので発表者を決めてください。

7

やっぱりPTAには「対話」が似合う！

PTA

6

まとめ

ありがとうございました。

8

PTA活動セミナー2021

PTA広報のブラッシュアップ

2021年5月17日

- 1 広報の目的
- 2 後半に向けての課題・改善・挑戦
- 3 グループ懇談(オンライン)
- 4 参考

TFF 特定非営利活動法人
チューニング・フォー・ザ・フューチャー

【参考・出典・引用元】
(公)日本広報協会 総務省「労働力調査(基本集計)」 杉並区統計書(令和2年版) ウェブサイトすぎなみ学倶楽部
すぎなみ地域コム スギナミ・ウェブ・ミュージアム Adobe Google Analytics Google Photo

コロナ禍で誕生したスギナミ・ウェブ・ミュージアム



ライター養成講座運営



海外向けウェビナープラン(UK)

講師:手塚佳代子

NPO法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー(TFF)代表。高円寺出身。商社やソフトウェア会社勤務、制作会社経営を経て2004年から、住民による地域情報発信の支援活動にプロジェクトマネージャーとして携わる。イベント・講演会、ライター講座、ご当地商品等の企画・開発運営等都内中心に区内、国外で活動。

杉並区では、杉並区基本構想審議会、学校教育コーディネータ等を経て、荻外荘懇談会、杉並郷土博物館運営委員を務める。

ONPO法人TFF杉並区関連の主な事業
「杉並区公式情報サイト「すぎなみ学倶楽部」
「なみすけ公式インスタグラム」
「杉並戦略的アートプロジェクト」
「中央線あるあるプロジェクト」
「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」
「Experience Suginami」
「杉並観光大使」
「すぎなみ地域コム」

2021年はクリエイターを目指す中学生～大学生支援イベントをタレント等と連携し夏休み開催予定。

TFF 特定非営利活動法人
チューニング・フォー・ザ・フューチャー

広報 = Public (公共・公然) Relations (交流・関わり)

広告 = Advertising

宣伝 = Promotion

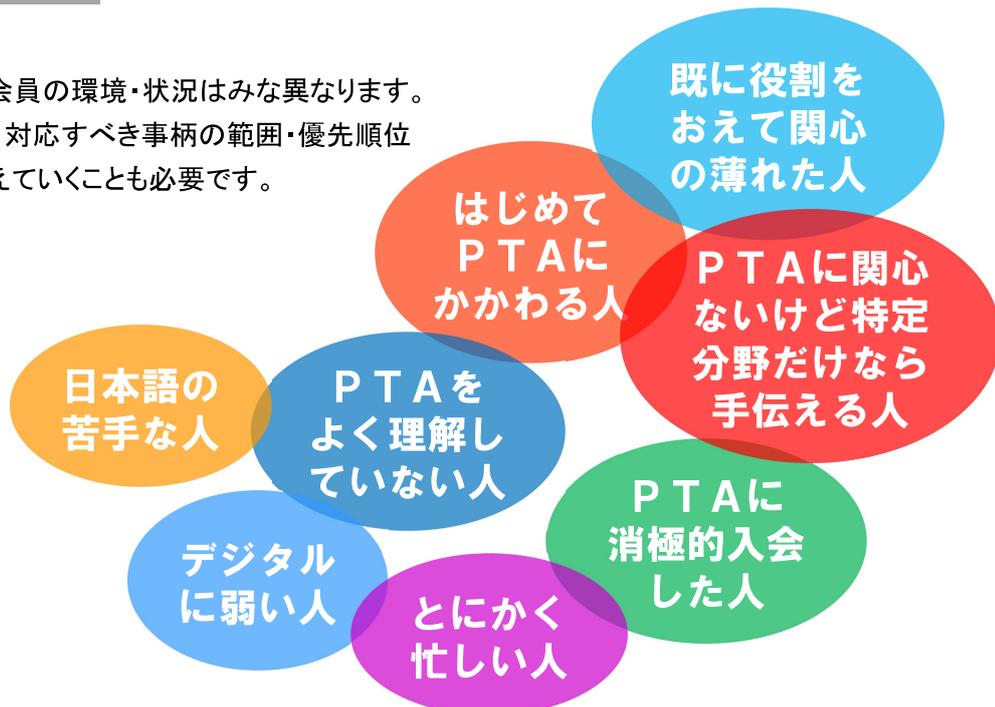
戦後占領軍が日本各地に設置したのが「パブリックリレーションズオフィス」。

日本についての知識や知見を共有し、軍内のコミュニケーションを強化することを目的とした。日本における広報戦略の始まりともされている。

**PTA広報の役割は
学校の魅力、PTA活動の魅力を
伝えることが目的です。**

広報誌の制作は、
この目的を達成するための経過でありツールです。
企画から担当できる自由度の高さは
楽しみでもありますが、それだけに責任を
もって活動しましょう。

PTA会員の環境・状況はみな異なります。
配慮・対応すべき事柄の範囲・優先順位
を考えていくことも必要です。



参考：区内外国人居住者・有業率

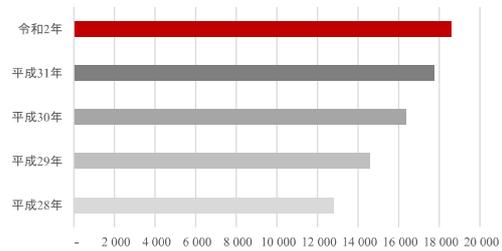
区内居住外国人

18,579人(2020)

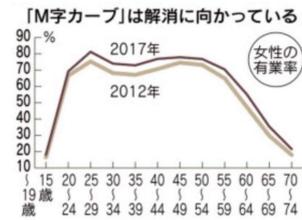
中国:6,356人
韓国:2,910人
ネパール:2,230人
ベトナム:1,527人
台湾:1,051人
アメリカ:797人

**杉並区民(574,118人)の
30人に一人が外国人**

杉並区の外個人人口 (杉並区統計書 令和2年版)



日本人女性の有業率 (出典:就業構造基本調査)



現在の検討事項の判断に役立てるためのチェック項目です。広報は自由度も高いので新委員の得意分野や考え方を反映し、後継に配慮した新しい広報活動を推進しましょう。

編集方針・企画制作

- 会員の状況・情報ニーズ把握
- PTA活動の魅力を伝える内容
- 読みやすい紙面づくり
- 今期ならではの取組
- 広がり意識したチーム構成
- コンプライアンス
- 教職員の係わり
- 制作レギュレーション

効果測定

- せっかく作った広報誌は本当に読まれているのか、読者はどんな感想を持ったか確認し反映しましょう。
- 読者アンケートを回収するための工夫・しくみ作り
- 読者とのコミュニケーション
- 読者アンケート結果→反映

デジタルの活用

- 打合せ等のオンライン利用
- データのデジタル管理
- ウェブ解析活用
- セキュリティ対策

●編集方針・活動コンセプトを再確認・再検討

活動はまだ始まったばかり。編集方針等を再確認・再検討してみましょう。

- ① 当校の広報誌を読んだ人は()になります。
- ② 当校の広報誌のこだわりは()です。
- ③ 当校の広報委員は活動を()と考えています。

●掲載する記事の魅力

今後の広報にはどんな記事を掲載予定ですか？ 役立ち、共感、初めて知ることは含まれていますか？

- ① 広報委員の視点を生かした()な誌面です。
- ② 読者の情報ニーズに配慮した()な誌面です。
- ③ 先生方の情報を生かした()な記事があります。
- ④ 過去になかった()な記事があります。

●制作レギュレーション

今期初号を制作して感じた方も多いのではないでしょうか。意外にレギュレーションのない学校が散見されます。複雑詳細なものではなく毎年状況にあわせ最低限のルール化で作業はしやすくなります。

分野	最低限の取り決め(例)	備考
編集・制作	<ul style="list-style-type: none"> ・文体は 敬体・常体 とする ・専門用語には注釈〇〇文字以内を添える ・略語は不使用 ・PTA役員は 敬称不使用・役職名のみ・敬称使用 ・原稿は 記名・無記名 とする ・写真には必ずキャプション〇〇文字以内でをつける ・レイアウトは先割(次頁参照)優先で文字数を合わせる ・顔文字絵文字は不使用 	読み手目線の編集はもちろんですが、情報にあった表現方法やルール選択をし続けることも重要です。息抜きコラム、豆知識などは書きぶりを変えるのも目先が変わって良いでしょう。
運用・活動	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム構成は学年をまたぎ・分担は〇〇とする ・ミーティングは各号制作開始〇〇日前に1回実施 ・ミーティングには必ずPT両者が参加する ・委員同士の連絡は夜間〇〇時まで PCメールはフリー ・デジタルの苦手な人はアナログ分野で協力(次頁参照)する 	チームは学年単位も多いようですが、多学年で組むと思わぬ視点が入り活性が向上することも。先生の参加により特ダネに遭遇することもあります。

杉並中PTA広報誌

Blue Wave No,187

写真横位置1枚
長手方向2000pxls

写真:
横12cm×縦9cm

あいさつ
見出: 15文字
本文: 120文字

見出10文字以内

見出15文字以内

見出10文字以内

見出10文字以内

見出15文字以内

コラム
見出: 15文字
本文: 120文字

Blue Wave

Vol. 212 / 2018.05

杉並中学校広報誌 発行: 杉並中学校PTA 編集: 広報部



重要！アンケート回収
本文広報部では、広報誌のクオリティアップを目指し読者アンケートを本誌巻末に用意しました。ぜひご回答ください！

重要！アンケート回収
本文広報部では、広報誌のクオリティアップを目指し読者アンケートを本誌巻末に用意しました。ぜひご回答ください！

重要！アンケート回収
本文広報部では、広報誌のクオリティアップを目指し読者アンケート。

すぎフェスで圧巻のステージ！

当校軽音楽部のダンスと演奏が、11月3日の「すぎなみフェスタ」に来場の3万人の聴衆を魅了しました。これまでの大人っぽいジャズを若者向けにアレンジした元気な演奏と、コーラスが中学生の域を超えているとの高評価。「立派な舞台で演奏でき幸せ！」「ノってくれて嬉しい」との感想。試験前にも関わらず頑張った部員に拍手。

ネット社会を知る勉強会第二回開催！

当校軽音楽部のダンスと演奏が、11月のすぎなみフェスタに来場の3万人の聴衆を魅了しました。これまでの大人っぽいジャズを若者向けにアレンジした元気で明るい演奏と、コーラスが中学生の域を超えているとの高評価。「立派な舞台で演奏できて幸せ！」「ノってくれて嬉しかった」と充足の一時でした。

	アナログ	デジタル
文章	○味がある ×不便・修正作業	○便利 修正・データ移動がラク △原本データ取違いの可能性
写真	○味を出すための演出に適す ×高コスト	○低コスト → ×撮りすぎる △データ管理に注意
イラスト	○PCには作りづらい風合いが可能 △大きさにより扱い困難	△暖かみのあるユニークなものを作るには工夫と技術が必要 △個性が表現しにくい
レイアウト	△結果が想像しにくい	○完成が予想しやすい ×限られた人しか作業できない
印刷	・内部プリンター出力の場合 ○低コスト △写真の再現が苦手	・オンデマンドやネット印刷の場合 △比較的lowコストで大量に作れる △データ制作の管理責任が重要



手書きや切り貼りで作ったパーツをスキャンやスマホで複写して誌面に取りこんでみるのも味わいがある人気。

●コンプライアンス

個人情報の保護、著作権の保護・活用は、基本を把握することで、企画制作に奥行きを持たせることもできます。

分野	内容	備考
個人情報	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の肖像利用は年初に学校に確認 ・児童・生徒の表情を掲載したい場合の工夫として広報部員のお子さんをモデルにするなど ・外部に配布されることも考慮し、学年、氏名の記載など情報の組み合わせに注意する 	
著作権	<ul style="list-style-type: none"> ・公共ではある程度の引用は認められているが、全体に対する割合が低いこと、必要性の有無が判断基準となる ・保護者が描いたイラストにも著作権は存在する ・人物写真には肖像権と撮影者の著作権が二重に存在する ・一般発行物は公開後70年、作家物は没後70年で著作権切れだが、2018年12月時点で上記51年を経過していたものは70年をまたず著作権は切れている ※美術品、地図類、戦時加算で一部例外あり 	<p>文化庁ウェブサイトの詳細でわかりやすい解説があります。よく読んで役立てましょう。</p> <p>著名人肖像などは当該記念館など公的な場では無償貸与されることもあります。国立国会図書館でもデジタルデータを開放している著作物があります。</p>



●時短・省紙・解析

すでに多くの学校で取り組んでいるデジタル化ですが、紙との併用で足踏み状態が続いています。

会員への呼びかけにはまだ難しい一面もありますが可能なものから挑戦してみましょう。

オンライン会議

- ・ZOOM, Teams, Google Meet など複数あり 無料利用時間・人数等の差異に注意
- ・ZOOM: チャットでコメントや書類共有、録音・録画可

データストレージ

- ・Google Photo : OCR性能も向上
委員が撮った写真を集積し選定などで利用
- ・Google docs など

公共提供CMS

杉並区が無償提供する「すぎなみ地域コム」ポータルサイトで発信可能。自己管理できる場合はCMSの利用も申請できる

公共サイト

杉並区が運営する公的ウェブサイトは確かな情報源(区役所、博物館、教育委員会、すぎなみ学倶楽部)

メールマガジン

無償配信サービス「まぐまぐ」、プロバイダー、メールサーバーなどに無料・低価格の配信サービスあり
定期発行物などは配信のみも検討



「すぎなみ学倶楽部」
人、歴史、産業、食などジャンル別情報サイト
※主に区民が取材・執筆し区が監修
※地域別の情報検索ができる

セキュリティ

IPA(情報処理推進機構)では、自己申告型の情報セキュリティの啓発事業「セキュリティアクション」で無料チェックシートを提供している。登録完了するとセキュリティマークを名刺等に利用できる

アクセス解析
(効果測定)

Googleが提供する解析サービス Google Analytics を設定したブログやウェブサイトではアクセス状況が確認でき効果測定が可能になる(いつ、何人が、どのページをどのくらい見たか)

ページタイトル	ページビュー数	ページ別訪問数	平均ページ滞在時間
	54,225 全体に対する割合: 100.00% (54,225)	42,830 全体に対する割合: 100.00% (42,830)	00:01:10 ビューの平均: 00:01:10 (0.00%)
1. 学年だより(2年).html	2,574(4.75%)	1,635(3.82%)	00:00:54
2. 広報(第92号).PDF	1,953(3.60%)	1,209(2.82%)	00:00:17
3. 広報(第90号)01.html	1,440(2.66%)	720(1.68%)	00:00:09
4. 広報(第90号)04.html	1,331(2.45%)	722(1.69%)	00:00:21
5. 運営委員会だより第178号 選管からのお知らせ.html	819(1.51%)	724(1.69%)	00:04:11
6. 学年だより(1年).html	814(1.50%)	508(1.19%)	00:00:21

解析例:
2年生の学年だよりは、2574回見られ、1回あたり54秒読まれていることが分かる。

アンネのバラが高井戸中に来た1970年代、杉並区で使われていた中学2年の国語教科書(三省堂)には『アンネの日記』が掲載されていた。1972(昭和47)年、区立泉南中学校に勤務していた小林桂三郎先生は、授業の中で生徒たちに、アンネ・フランクに寄せる手紙を書くように呼びかける。ベトナム戦争が激しい攻防を繰り返していた時代、生徒たちは自分と同時代のアンネの書いた日記に衝撃を受け、戦争や人種差別について深く考える。

引用元: すぎなみ学倶楽部
【証言集】アンネのバラ
咲かせ続ける平和の願い

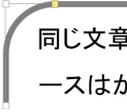


- ・写真の切り抜き
- ・文字のまわりこみ
- ・ゆったりとした行間

▼このポイントで調整

同じ文章量なのに、スペースはすこし違います。同じ文章量なのに、スペースはすこし違います。

同じ文章量なのに、スペースはすこし違います。同じ文章量なのに、スペースはすこし違います。



- ・角丸の大きさを小さくする
- ・通常文章は左合わせ

見出し向きのフォント:ゴシックや太めの明朝

本文に適したフォント:細めのゴシックや明朝体が使われます。アンネのバラが高井戸中に来た1970年代、杉並区で使われていた中学2年の国語教科書(三省堂)には『アンネの日記』が掲載されて

- ・文字種にメリハリ
- ・3~4種のフォント種・サイズを設定



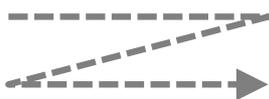
杉並区運営サイト「すぎなみ地域コム」
「広報すぎなみ」(毎月1日15日発行)
講座、セミナー等の情報が満載



プロ用ソフトにも廉価版やI-pad用
など手軽に挑戦できるものがある
画面: Photoshop



フォトストレージなどでもテキ
スト抽出、色加工などに対応
しているものもある
画面: Google photo



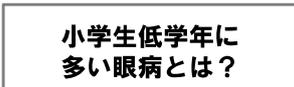
Zの法則
人間の視線は 左右→上下 に動くのが一般的とされる 重要事項の掲載の参考に



赤の法則
人間の視線は赤を第一にキャッチする、ことが多い 色に対する意識感覚は地域によって異なる傾向がある



視線・肖像の法則
同じ状況にある印刷物なら肖像(目線)のあるものを受信者は第一にキャッチすることが多い



ダグマーの法則
興味を感じるかどうか、人間は一瞬に判断するという説

見出しに使える英文

要返信 MANDATORY REPLY	要提出 SUBMISSION
締切日 DEADLINE	報告 REPORT

過去に人気のあった企画記事

- あの著名人はわが校OB・インタビュー掲載
- 広報員しか撮れない体育祭ベストショット集
- 合唱コンの舞台裏で起きていた感動・・・
- 先生だけが知る授業の熱いはなし



適切なアイキャッチ(見出し・画像)を用意することで目にとまりやすく、情報を濃縮することで読者に充実した読後感をもってもらえます。また広報員の個性が垣間見えることで親しみを感じてもらうこともできます。バランスに配慮して届きやすい広報誌を制作しましょう。



杉並区立小中学校 PTA活動セミナー2021

2021.5.17(月)13:30-15:00

高井戸中学校PTA 前・内副会長 勝京子



高中PTA 昨年度の活動共有

- 1 マーケティングとPR不足のPTA
- 2 価値 > 会費
- 3 オンライン化before・after
- 4 区の無料ホームページの作り方



活動については、高中PTAとしてのものですが
「感想は個人的なもの」です。

PTAをイヤな団体にしたのは誰？

- Q pta 意味ない
- Q pta 廃止
- Q pta やらない人
- Q pta 問題
- Q pta トラブル
- Q pta 退会
- Q pta 入らない
- Q pta 仕事内容

「公立校のPTAの意義」
「PTAメリット」
「PTAよかった」
というキーワードはない！



実際・・・

「PTAはノーリスク・ハイリターン！」

1 マーケティングとPR不足のPTA

だった
3

高中PTA 2019年Namiki2号誌

不安でいっぱいだったのが
どんどん力が入って
たくなるのが
PTAや委員の仕事

先生、子どもたち
との距離が
縮まった

フルタイム
勤務では参加
が難しい

自分が何かの
役に立つことを
確認できよかった

人前に出るのが
苦手
毎回緊張してしまっ

時間にとられ
ただ大変
だった

改革を進めようとしたが
拒むのが
歴代会長だった

思いしかな
い

時給なので
収入に
影響する

心身ともに疲れた
自分の仕事を
しない人がいて

人間関係

苦勞したが
結果的には
いい経験になった

仕事のスキル
があがった

家のこと子どものことが
後回しになったことがあった

仕事との調整が大変だった
天国か地獄かメン
楽しい思い出もあった

か心が加え
いことめ
苦しきなめ
たしさが参休

重要なことをしていないのに、苦勞を要する点が疑問だった

特集 PTA活動
アンケート結果

相談や
情報収集ができた

学べた
経験できないことを
知れたのはよかった

学校のことを
議論することに
大きな意義を感じた

保護者としての
課題を見つけた

とにかく大変という
ウツサがひとり歩き
していていると思う

特集 PTA活動

アンケートから読み解く保護者のホンネ
「楽しかった」7割「自分のためになった」8割
でも「次はやらない！」6割の謎？！

感謝の声！
7月のPTA活動に関するアンケートにご協力くださりまして、ありがとうございます。

小中学校や高校で1度は委員や役員を経験した人多く、およそ半数の方が、コメント欄にじっくりご意見を書いてくださいました。

PTAや委員活動が忙しすぎる中、PTAをやって「楽しかった」という人7割。子どもたちのためのPTA活動ですが、「自分のためになった」と答えた人が半数もいました。具体的には、知り合いが増えた、多様な価値観に出会えた、スキルアップ、自己啓発アプリアップがありました。

さらに、「PTAはボランティアなので、ちょっとでもありがとうと思っただけならどうしようもない」という経験者のコメントがあったかと思えば、それと答えるように「とても感謝しております。ありがとうございます。」「学校や子どもたちのために動いてくださりありがとうございます」という声もあつた。PTAは、とても感謝されていることがわかりました。

「役員、委員なんかもやっても、だれにも感謝されないし」と思っている人も多いと思いますが、ありがとうございます！と答えているだけで、高中PTAは、とても感謝されていることがわかりました。

改革を求める声、声、声！
一方、疑問に思っていることや、高中PTAに改革を求める声も多数聞かれました。

もっとも多かった声は、活動時間に際するもの。「活動がほとんど平日昼間なので参加が非常に難しい」「日曜開催に苦労した」これが、またやらないとは思えない最大の理由とも考えられます。

共働き世帯が、専業主婦世帯より増えているのは、平成9年です。今から22年です。

ところが、PTA活動の多くは専業主婦と、時間に融通が利く自営業者しか参加できない時間帯に設定されており、高中PTA会則第4章第9条の、委員の平等の権利を損なうものであると答えています。

今後は、これだけの多くの意見があることをふまえる必要がありそうです。

さらに「PTA活動をしてくださる方の負担が減るように、活動を視察することもお願いした方がいいと思います」という意見もたくさんありました。

予算
「学年委員が用意する、茶会のお金はいつもありません。1学期のミーティングに必要でしょうか？」「献金が多いうえに思っています」

これらの意見を、PTA総会で出せません。委員に選ばれた人が、その活動は必要か？予算はどのくらいか？委員長の役員と報酬に合わせる必要があります。

選挙
「保護者会に出席したら半ば強制的に委員を引き受けるシステムを何とかしてほしい」
どなたかシステムなる公平か、保護者から意見を聞く場所を、PTA役員に提案したいと思います。

＜多数にわたる高中PTAの活動＞

活動	知っている	知らない
清掃工場長守り	36	126
バドミントン	119	45
施設訓練参加	117	49
PTAの保険	82	73
PTAハレ一部	119	37

PTA役員・委員を
選中以外でしたことがある
いいえ 59% はい 41%

PTA役員・委員を
選中以外でしたことがある
いいえ 16% はい 84%

PTA活動は
楽しかった
いいえ 31% はい 69%

PTA活動は
自分のために
いいえ 19% はい 81%

PTA活動は機会があれば
またやってみたい
いいえ 57% はい 43%

活動時間を教・主日など
取り戻したいと思う
いいえ 43% はい 57%

会費の内訳、繰越金わかりますか？

今まで繰越金



「会費以上の価値を提供したい！」



2 価値 > 会費

高中オンラインPTA2020

- ◆オンライン子どもの学習アンケート（4月24日～26日）
- ◆オンラインPTAだより発行5月7日から年10回
- ◆オンライン委員決め（5月25日）
- ◆オンライン総会（7月2日オンライン議決権行使）
- ◆オンライン受験座談会（8月1日）
- ◆オンライン講演会（9月19日）
- ◆オンライン制服リサイクル（春・秋）
- ◆オンライン役員説明会（9月26日）
- ◆オンライン役員決め（10月31日締め切り）
- ◆オンライン役員会（随時）
- ◆オンライン実行委員会（随時）
- ◆オリジナルホームページ作成



保護者のための受験座談会
 保護者としての負担軽減
 子どもの進路について
 8月1日(土)
 18時～19時
 Zoom

吉野邦昭先生講演会
 アマアガの読書研究会
13歳から
読書の
学校では教えてくれない記憶法・学習法
 1. 頭の悪い子はいない
 2. 記憶法なのに覚えられない
 3. 解「アタマ」の「つ」方向を学ぼう！
 ◆9月19日(土)◆10時30分～12時
 ◆高井戸中学校会議室から生配信
 ◆申込者全員に期間限定で録画動画も配信

高井戸中学校 令和2年度PTA2020
 保護者アンケートの結果
 1. 調査の目的
 2. 調査の結果
 3. 今後の対応
 4. 謝辞
 5. お問い合わせ先

高井戸中学校PTA2020
 8月1日(土) 18時～19時
 Zoom

高井戸中学校PTA2020
 9月19日(土) 10時30分～12時
 Zoom

オンラインPTA弊害



SNSだけで話し合うことの限界



悲願のホームページ完成



4 区の無料ホームページの作り方

参考モデル

参考モデル：PTAアワード兵庫2021

PTAアイディア集

<https://drive.google.com/drive/folders/1jSlgqGK8K9ji7Jg-zcR9zmLDZTc3brPZ>

<PTAアワード兵庫2021> ~みんなでPTAアイディア集を作ろう~

【PTAアワード兵庫2021に込めた想い】
少子高齢化や共働き家庭の増加など社会の変化により、PTA活動を担う環境は大きく変化しています。
特に、昨年から新型コロナウイルス流行により、学校教育及びPTA活動においては、変化を余儀なくされている状況かと思えます。
そこで、他の学校のPTAはどんな工夫をしているのかぜひみんなで情報共有し、ご自身の学校でのPTA活動のヒントにして頂ければと思い、本イベントを企画いたしました。
「アワード」という名称ですが、順位や賞を決めるのではなく、
みんなの工夫を賞賛して、良い部分をみんなで共有し、より良いPTAの形を目指したい！
という想いを込めております。

第1回開校50周年記念PTA委員会 プローフェッショナルハイパーアワード

<PTAアワード兵庫2021> ~みんなでPTAアイディア集を作ろう~

【点から線へ 線から面へ そして立体へ!】
1人1人の小さな行動が つながって 大きな波になる♡

2018年3月 甲子園
「そまろろPTAについて考えよう会」

2018年11月 豊原南
「豊原と知らないPTAまつりの話」

2019年11月 豊原南
「PTAを考える会第1回」

2019年3月 豊原南
「PTAアワード〜みんなのアイデア集〜」

2020年3月 豊原南
「PTAアワード〜みんなのアイデア集〜」

2021年2月 豊原南
「PTAアワード〜みんなのアイデア集〜」

第1回開校50周年記念PTA委員会 プローフェッショナルハイパーアワード

【心折れずに ポジティブに PTAと向き合う コツ】

- ①まずは様々なアイデアを知るために動くこと
- ②仲間を見つけること
- ③ビジョン&ゴールを伝えながら、楽しみながら実行すること

このPTAアワードが 皆さまの一步のヒントになりますように♪

第1回開校50周年記念PTA委員会 プローフェッショナルハイパーアワード



PTA活動セミナー2021

書記活動ブラッシュアップ

2021年5月17日

- 1 運営委員会の情報発信
- 2 グループ懇談(オンライン)
- 3 参考情報

コロナ禍に誕生したスギナミ・ウェブ・ミュージアム



講師: 手塚佳代子

NPO法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー(TFF)代表。高円寺出身。商社やソフトウェア会社勤務、制作会社経営を経て2004年から、住民による地域情報発信の支援活動にプロジェクトマネージャーとして携わる。イベント・講演会、ライター講座、ご当地商品等の企画・開発運営等都内中心に区内、国外で活動。

杉並区では、杉並区基本構想審議会、学校教育コーディネータ等を経て、荻外荘懇談会、杉並郷土博物館運営委員を務める。

ONPO法人TFF杉並区関連の主な事業
「杉並区公式情報サイト「すぎなみ学倶楽部」

「なみすけ公式インスタグラム」

「杉並戦略的アートプロジェクト」

「中央線あるあるプロジェクト」

「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」

「Experience Suginami」

「杉並観光大使」

「すぎなみ地域コム」

2021年はクリエイターを目指す中学生～大学生支援イベントをタレント等と連携し夏休み開催予定。



ライター養成講座企画運営



海外向けウェビナーコーディネート(UK)

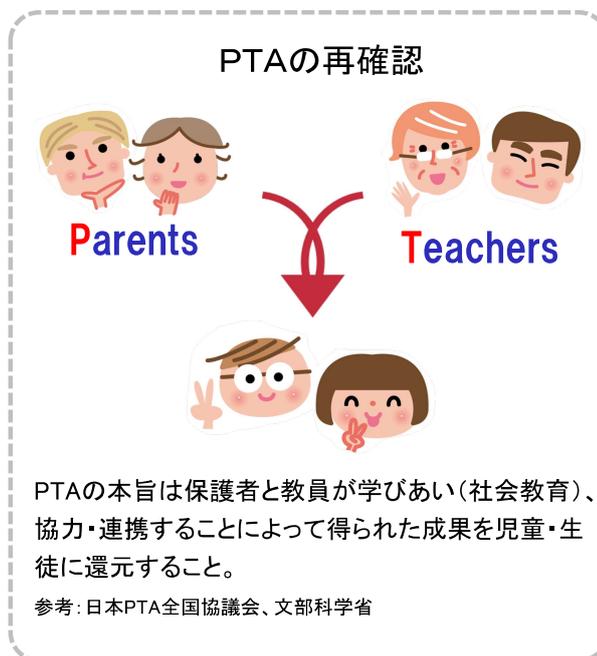


① 書記(庶務)の役割

PTA活動の事務的なことのまとめ役です。「PTAハンドブック」では、具体的には、「総会や運営委員会、役員会の開催通知、次第、議事録のほか、活動の報告書(運営委員会だより)などを作成します」と定義されています。



**書記は活動の記録はもちろん
活動への理解・協力を求める
情報発信を担う**



② 活動コンセプトの検討・確認

作業の効率化

有職率上昇・核家族化など子育て中の会員の負担を軽減し、**本当に必要な活動を再検討し改善**していく。

- 記録実務の改善
- デジタル・ネットの活用
 - 紙媒体の縮小
 - セキュリティ学習
- 自身が係わる意義・必要性

情報到達効果の向上

誌面を作ることは目的ではなく手段。情報が**読み手に到達し理解されることを重視**する。

- 読み手配慮
 - 簡潔・箇条書き利用
 - やさしい日本語という概念
 - 英語・漢字の見出し
- 効果測定の工夫
 - 読み手の状況を知り反映
- デジタル・ネットの活用

これからの活動スタイルを意識・提案

会員減少、多言語化、関連組織との連携・役割分担を念頭に**新しいスタイルを提案**。

- 独自の仕組み・取り組み
- PDCAで検証
 - 作りっぱなしにしない
- デジタル・ネットの活用

③ デジタル・ネットの活用

メンバーの会議や
打合せはオンライン
活用も！

- オンライン会議(ZOOM 40分無料 録音可能 書類やりとり可能)
- SNS電話(電話番号を知らなくても電話できる)
- SNSグループ(Clubhouseは同時発言・非公開設定が可能)
- スケジュール調整サイト

印刷廃止の検討
デジタル化推進
併用では解決できない状況
が続いている

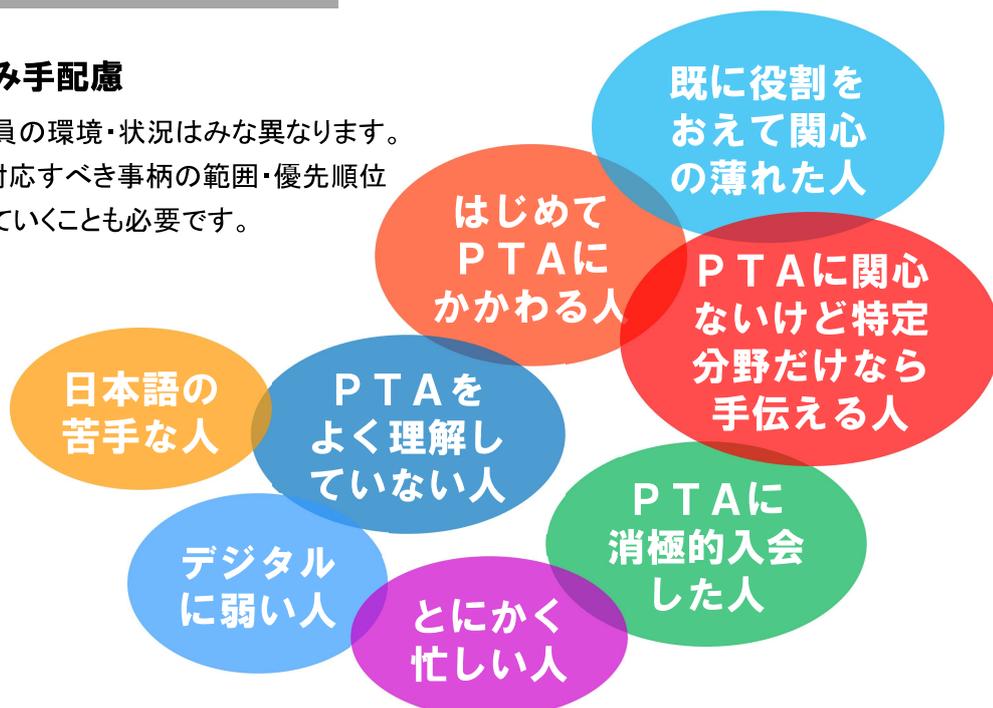
- 年初に会員へのネット利用の誘導・確認
- PDF(Portable Data File/単発なら画像データ)の活用
非公開サイトでの共有(すぎなみ地域コム/PTA用アプリ等)
会員制メールマガジンで定期的配信が可能
- PTA関連の書類は定期配信(発行)で受信しやすく

セキュリティ学習

- 正しい知識・事例を知り判断力を向上
- 関係機関・サービスの特性を知り安全に運営
- スマートフォンでの閲覧方法の学習

④ 読み手配慮

PTA会員の環境・状況はみな異なります。
配慮・対応すべき事柄の範囲・優先順位
を考えていくことも必要です。



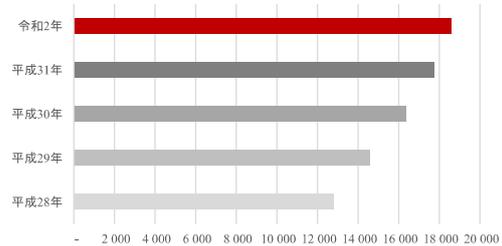
参考:区内外国人居住者・有業率

区内居住外国人
18,579人(2020)

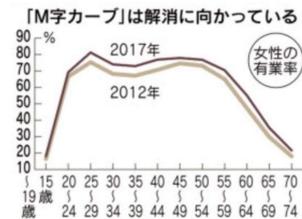
中国:6,356人
韓国:2,910人
ネパール:2,230人
ベトナム:1,527人
台湾:1,051人
アメリカ:797人

**杉並区民(574,118人)の
30人に一人が外国人**

杉並区の外国人人口(杉並区統計書 令和2年版)



日本人女性の有業率(出典:就業構造基本調査)



手に取り
読んでもらう工夫

忙しくても簡単に読めそうと感じてもらい、読まなくてはいけない重要なことが書いてあることが一目でわかる工夫を。

見出しの工夫

- 重要度が分かる工夫 **最重要** **要返信(5/20期限)** **報告**
- 見出しだけで概要が分かる 本文が読みたくなる工夫
- 記事の多いときはナンバリングで把握しやすくする

執筆・編集の工夫



- 季節のあいさつ文等の短縮やカット
- 一文を短く 適度な改行
- 経験者にしかわからないPTA用語・略語は使わない(疎外感の排除)
- 読みやすい文字サイズ・フォント・行間隔
- 適所では簡条書きを使用
- 会員本人が該当するかわかりやすいよう文中の**学年**など強調
- 可能な場合は、表・グラフを活用し文字説明を削減

参考:見出しに使える英文

重要 IMPORTANT	要返信 MANDATORY REPLY	集金 MONEY COLLECTION 会費:membership fee
締切日 DEADLINE	要提出 SUBMISSION	報告 REPORT
短縮時間割 CLASS SHORTENED	自宅待機 WAIT AT HOME	学級閉鎖 CANCELLATION

⑤ 独自の仕組み・取り組み

「なんで私がやらなくてはならないの？」 → 「担当してよかった」と感じるPTAを。

他校と違うわが校の
PTAが誇れること

- 課題を掘り起こし改善
- ・これまでの慣習で不要と思えるものはないか
- ・ほかの組織と重複した不要な取り組みはないか
- 次世代を意識した新しい仕組みづくりに挑戦
- ・デジタル、ネットを適宜活用しているか
- ・セキュリティ情報を把握しデジタルをバランスよく活用しているか

PTA会員の担い手不足
を解消する取り組み

- PTAの意義、やりがいは正しく伝わっているか
- 人材は適材適所か
- ゆるやかなネットワーク化・サポーター制を取り入れているか
- 活動に直接関係のない負担を増やしていないか

オンラインディスカッション

- ・発言は一人ずつ（ZOOMでは同時発音は1名のみ）
- ・全員の発言機会の均等化に配慮
- ・気になる発言、役立つ発言はメモをとろう
- ・慣れている方は「画面共有」「チャット」なども活用

終了後いくつかのグループに発表をお願いします。

1分程度で、みなさんに知らせたい役立ちなど発表し共有ください。

3 参考 セキュリティ対策・コンプライアンス

セキュリティアクション IPA(情報処理推進機構)

- ・自己申告型の情報セキュリティ学習システム。
- ・無料チェックシートで各自がセキュリティチェック&自己採点し日常のインターネット活用に役立てられる。
- ・自己改善、中小組織改善に利用されている。

コンプライアンス 法令遵守

書記活動のなかで 個人情報、著作権などで悩ましい判断をしなくてはいけない可能性は存在はしています。基本的な確認をしておくで日常生活、ビジネスにも役立ちます。

- ・PTAのマスコットは誰がデザインしたのか？
- ・役員のプロフィールはどこまで具体的に記載するのか？

※参照:文化庁/著作権制度に関する情報

※参照:個人情報保護委員会

- ・情報の組み合わせで個人特定できる状態を防ぐ
- ・PTA会員の書いたカットにも著作権はある

適切な人数で作業

多人数・分母が多いほど良いもの

- ・企画などのアイデアだし
- ・調査活動 情報収集
- ・初期の校正

少人数・決定、判断を要するもの

- ・校正作業（ただし一人だけに任せない）
- ・デザイン（万人ウケ＝誰にもウケない）

得意分野を生かす
各人の状況に配慮

スキル・IT知識・フットワーク・時間帯・家族状況

- ・委員の状況を把握し作業分担を検討
- ・打合せの日時や連絡方法の検討時に配慮

校長あいさつ

こんにちは、みなさん。

ただいまご紹介にあずかりました新校長の前田です。

新年度もはや2ヶ月。1年生もすっかり学校生活になじんで、子供たちが日々成長している様子を伺えます。学校では、学習はもちろんのこと、集団活動を通して強調性、思いやり、友達の大切さを肌で感じ、ああ、学校は友達とのコミュニケーションも楽しいな、楽しいので勉強も一緒にやってみよう、と感じてもらうことも大切です。ただ、学校での生活は1年生はまだ午前だけ、数時間です。こどもたちの健やかな成長は学校だけで成り立つものではありません。

どうか私たち職員と状況を共有していただき、ぜひご家庭で、保護者としてもお子さんの成長をサポートいただき、何かご不明なことなど課題を感じたら担任にご相談ください。

手紙や、連絡帳を活用して、是非コミュニケーションを図ってください。それによって子供、保護者、そして私たちも一緒に成長できるのではないのでしょうか。

どちらも大切 学教教育と家庭教育

前田校長

1年生もすっかり学校生活になじみ、全校児童の成長ぶりが伺えます。集団活動を通し強調性、思いやり、友達とのコミュニケーションの大切さを感じ取り、楽しいと感じる環境のなかでだからこそ勉強もやってみよう、と感じてもらうことが大切です。

子どもたちの健やかな成長は学校だけで育めるものではありません。どうかご家庭でお子さんの成長を見守り、リードし何かご不明なことなど課題を感じたら手紙や、連絡帳を活用して担任にご相談ください。情報の共有によって子供をとりまく みなさんがともに成長できるのではないのでしょうか。

- ・善意ある言い換え程度の変更は可
- ・情報が濃くなり充実した読了感がある
- ・分量が減り読みやすい文字サイズ、行間が設定できる

春号 **運営委員会だより** 第285号
平成29年5月
杉並中PTA

SDGsを親子で体験！リサイクルプロジェクト始動

5月第1回運営委員会では、アンケートで要望の多かった習字道具・衣類リサイクル、ランドセル寄付について9月スタートを予定しています。

自由参加 関心のある方はオンライン会議にご参加ください！
5月30日 朝8:40から20分 PTA部会アカウント

日付は大きく太く

・概要と詳細のバランスに配慮
・参加手順を簡単に紹介



Zの法則

人間の視線は左右→上下に動くのが一般的とされる



赤の法則

人間の視線は赤を第一にキャッチする、ことが多い
色に対する意識感覚は地域によって異なることがある



視線・肖像の法則

同じ状況にある印刷物なら肖像(目線)のあるものを受信者は第一にキャッチすることが多い



ダグマーの法則

興味を感じるかどうか、人間は一瞬に判断するという説

何かひとつ自分たちならではの個性やスキル、独自の考えを活かした情報発信に取り組んでみましょう！

講演資料

市民防犯編

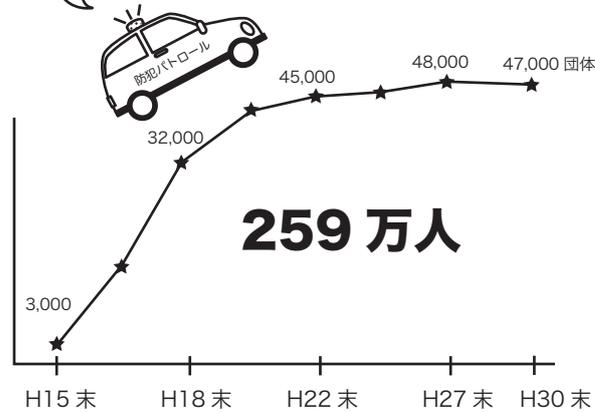
うさぎママのパトロール教室
(文責: 武田信彦)
www.usagimama.com

一般市民による
防犯活動とは？

市民防犯が目指すこと

犯罪が起きにくい環境づくり
助け合いの雰囲気づくり

青色回転灯の
パトロールカー
全国で45,240台!
年々増えています



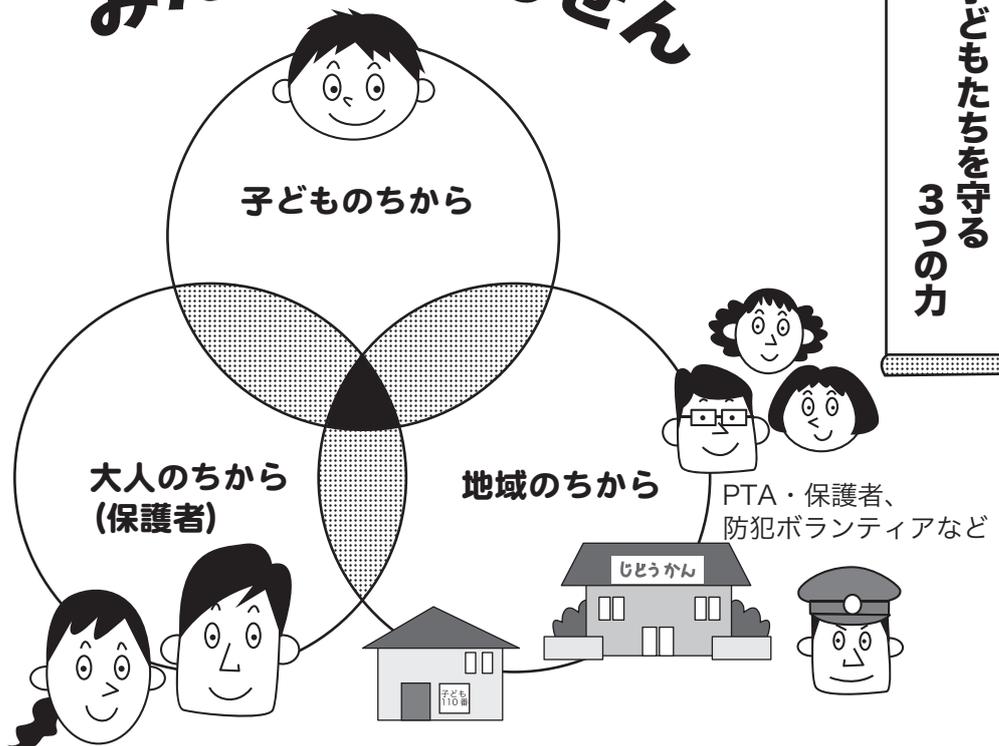
「全国の防犯ボランティア団体数の推移」
※平均して月1回以上の活動、5人以上の団体

警察による防犯が「直接的防犯」
だとしたら、市民防犯は「間接的
防犯」といえるものです。
犯罪や非行と直接対峙するもの
ではなく、子どもたちや地域の皆
さんへ目を向け、見守りや健全な
声かけを行うことで、犯罪が起き
にくく、助け合いの輪が広がる環
境づくりを目指す活動です。

ポイント!

みんなであんぜん

子どもたちの安全を守るためには、①子どもの
力②自分を守るための予防や対処などの力。③大
人の力④保護者など身近な大人が子どもを守り、
子どもがもつ身を守る力を引き出す力。⑤地域の
力⑥子どもや保護者だけでは対応できない範囲を
サポートする力。これらの力が重なり合うように
連携することで、安全の力が強くなります。



子どもたちを守る
3つの力

ポイント!



防犯は、パトロールをはじめ、見守り、各種啓発活動など、さまざまな活動スタイルがあります。最近では、「ながら見守り」と呼ばれる、ライフスタイルに合わせた活動も広がっています。

それぞれの地域に合わせた柔軟なアイデアで、安全・安心両面が元気になるための方法やスタイルを実践しましょう。

安心

安心

地域住民や子どもたちの安心感が育まれる

安全

連携

関係機関や地域の連携・協働が活性化する

意識

一人ひとりの防犯意識を高める

予防

犯罪が起きにくい環境づくり

防犯ボランティア
期待できる効果



見守りが育む
世代を超えた安全安心



ポイント!

防犯ボランティアの活動には、防犯を超えた効果も期待できます。それは、子どもたちの心を育む効果です。日々の見守りとおして、あいさつや健全な声かけを行うことは、子どもたちにとって大きなメッセージになります。

あいさつの返事がない、声がかげにくい...など見守りがしにくい環境も増えていますが、そんな時こそ、元気にあいさつや声かけをしましょう。「地域教育」ともいえる貴重な力だからです。

講師紹介

武田 信彦 (ヨッシー)

うさぎママのパトロール教室主宰
安全インストラクター

1997年、大学時代に国際的な犯罪防止NPOの活動に参加。
2006年より、安全インストラクターとして講師活動を行う。
「市民防犯」を提唱し、全国で講演、ワークショップなど多数実施。
パイオニアとしてメディアやコラムでも発信中。

著書・監修

「もしもテロにあったら、自分で自分の命を守る

民間防衛マニュアル」 ウェッジ

「SELF DEFENSE『逃げるが勝ち』が身を守る」 講談社

「ガールズ☆護身術」 スタジオタッククリエイティブ

「親子で読もう!子どもの安全ブック」 スタジオタッククリエイティブ

「子どもの安全・安心ハンドブック」 ベネッセ子ども基金

あんぜんパワーアップ!



防犯ボランティアは
地域の安全力を元気にします!

講演資料 防犯ボランティア実践編

防犯ボランティアを行う際は、自治体や警察と連携・協働し、地域の状況に合わせた活動を行うことが重要です。また、学校、児童館、PTAなどとも情報交換を行い、人々の関心事や不安に感じることをリサーチしましょう。

いま、学生防犯ボランティアも各地で活躍しています。世代を超えた交流は、活動そのものを活性化するきっかけとなります。

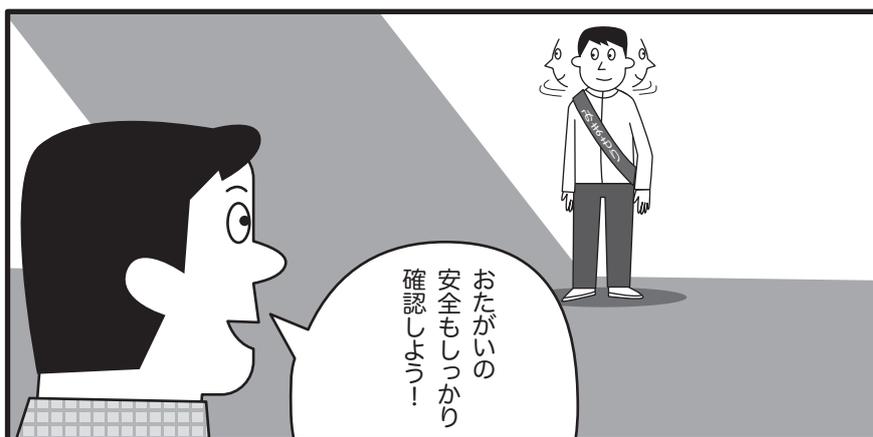
ポイント!

うさぎママのパトロール教室
(文責:武田信彦)
www.usagimama.com

防犯パトロールは、「犯罪が起きにくい環境づくり」と「助け合い」を実践するものです。とくに、カラフルなユニフォームや腕章を着用して姿を見せることで、犯罪がしにくい効果(自然監視)とともに、困っている人が助けをもとめやすくなる効果が期待できます。大切なことは、笑顔と元気なあいさつです。優しい強さで、地域を守りましょう!



ポイント!



姿を見せることで
防犯と助け合いの効果を広げる

見守りの際には注意すべきこともあります。
 ①適度な距離感を保つ＝過度な接触は、誤解やトラブルにつながります。②飲食物をあげない＝飴やドリンクもあげない。健康面への配慮と飲食物を用いた犯罪を防ぐため。③自ら敷地や車に招き入れない＝保護者の許可なく連れていく行為は犯罪のリスクを伴います。緊急時に保護する場合は除きます。
 あいさつ・健全な声かけで見守りを行いましょう!



あいさつと声かけで
安全・安心をひろげよう!

心配な子どもと出会ったら…



防犯活動は、継続することでその効果も大きくなると言われています。しかし、くれぐれも無理は禁物です。誰かひとりだけに負担がかかるないように役割分担をする、活動頻度は少なくなっても出来る範囲で続けてみる、パトロールや見守りの方法を変える、地域住民や子どもたちに安全の大切さを伝えるような啓発活動にチャレンジしてみる…。

みなさまが育んできた安全と安心の輪が消えることがないように継続できる方法を考えてみましょう。

ポイント!



- 一、無理をしないよう
- 一、活動の種類をひろげよう
- 一、活動を発信しよう
- 一、世代をまぜよう
- 一、楽心の雰囲気をつくらせよう

元気につづけよう!
継続するコツ

通報・連絡

事件や事故を目撃したときはすぐに通報!
 気になることがあれば各機関に連絡しましょう。

- 警察通報用電話 : 110番
- 警察相談ダイヤル : #9110番
- 虐待・子育ての悩み : 189番 (児童相談所)
- 詐欺・悪質商法など : 188番 (消費者ホットライン)

※警察署や自治体の窓口の連絡先も調べておきましょう。

自然に触れたい

季節を感じたい

健康のためにも!



講演資料

子どもたちのあんぜん編

うさぎママのパトロール教室
(文責: 武田信彦)
www.usagimama.com

① ひとりにならない



あんぜんスイッチ オン!



たいせつ じぶん こころ からだ
大切な自分の心や身体を
まも
しっかり守りましょう!

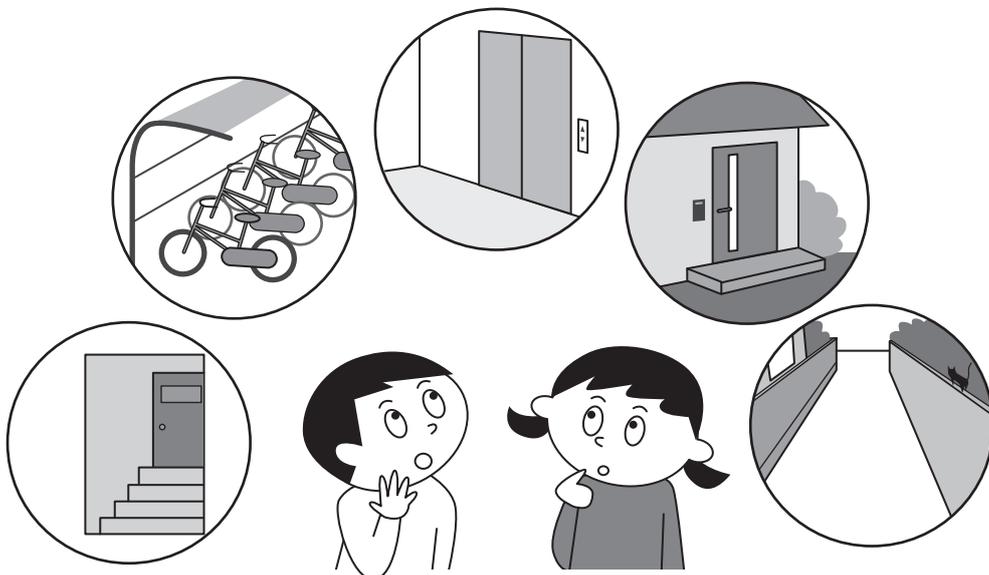
ポイント!

子どもたちのコミュニケーション能力を育むためにも、地域のみなさまとのあいさつなどはとても大切な練習の機会です。また、安全確保のためには、登下校時など、保護者やPTA、地域のみなさまの見守りの中で、「ひとりにならない」環境づくりが欠かせません。子どもたちと一緒にどうしたらひとりにならないかを考えてみましょう。

② ひとりになるとき どんなとき?

ポイント!

子どもの行動範囲が広がると、どうしても「ひとりになる」瞬間が生まれます。それは、最も気をつけなければいけない時でもあります。場所や時間にとらわれず、「ひとりになる」瞬間はどんなときでしょうか。



③ まわりをよくみる、よくきく

ポイント!

まわりに意識を向けることは、危険を寄せ付けず、万が一のとき対処を早めるための「予防力」です。とくに、自宅周辺など慣れている場所は、心や身体に隙(すき)が生まれやすくなるので注意が必要です。「だるまさんがころんだ」など、簡単なフレーズで習慣にするとよいでしょう。

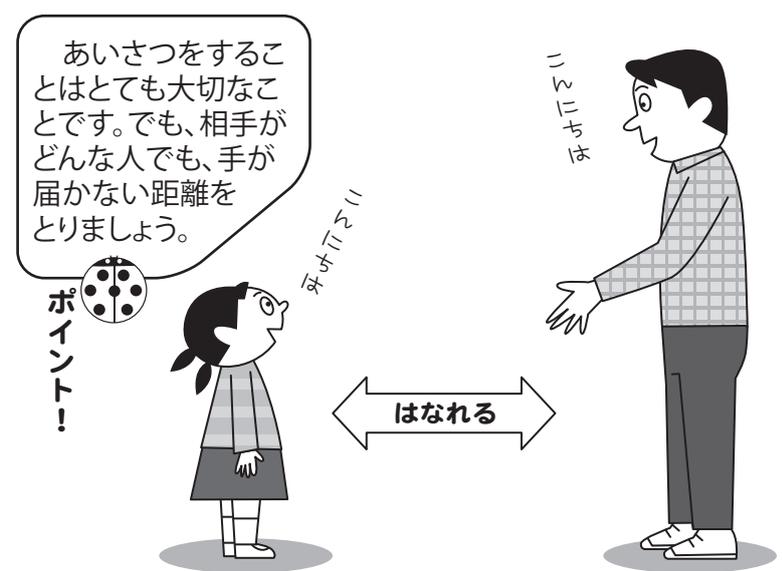


もし、ひとりになったら、まわりをよくみて、よくきいて歩きましょう。自分のまわりにどんな人(車、バイク、自転車...)がいるのか、しっかり確認して歩きます。

⑤ できません!



④ さわられない、つかまれない



⑥ にげる



ぼうはん 防犯ブザー



防犯ブザーは、逃げる、助けを呼ぶ時に役立つ道具です。すぐ手の届くところに身につけ、時々電池の確認をしましょう。

⑦ たすけてをつたえる

